

特231

296

欧州の情勢と支那の事変

— 講演叢書第二十篇 —



始



時 231
296



變事那支と勢情の洲歐



序

茲に池崎忠孝氏の「歐洲の情勢と支那事變」山田わか氏の「時局と婦人」の二篇を輯録して、講演叢書第十二篇を公にする。

池崎氏は本年四月十六日夜、山田氏は五月十八日の晝、共に本協會の招きに應じ、文化講演會に臨んで、市民大衆に對して、各々その得意の立場から、或は歐洲の情勢を語り、或は國民の自覺を喚起して、支那事變下に於ける吾等の時局認識の上に意義深き、尊い指針を示し、聽衆に限りなき感激を興へられた。だから本叢書の表題には池崎氏の講題をその儘頂戴する事にした。

本書を刊行するに當り、遠路西下御講演下さつた兩氏の御好意に對して、厚く謝意を表したいと思ふ。

昭和十四年六月

歐洲の情勢と支那事變

前文部參與官
衆議院議員

池 崎 忠 孝

私は只今御紹介を受けました池崎であります。本夕はヨーロッパの情勢と支那事變といふ演題の下に所見の一端を申上げて見たいと存するのであります。只今もお話がありました通りこの數日來ヨーロッパの天地は何となく、不安を極めてゐる。この期間が果してどの程度まで続くものであるかといふことは、それ自體として私共の興味を惹くものであります。ところが私共が更に一方世界の全情勢の上に立つてこの事態を観察いたしまするといふと、その事件自體が吾々に取つて興味を惹くばかりでなく、この事件の推移如何に依りましては、支那事變といふものの上に極めて重大な影響を與へる見込みがあるといふよりも、寧ろ現に與へつゝあるのであります。

私共はこの所謂大陸政策といふものを遂行する上に於きまして、既に三ヶ年に亘つて戦ひつゝあるのであります。只今の情勢の下に於きましては、この支那事變がいつ如何なる形で、どういふやうにかたがついて行くものであるかといふことに就ては見透しがついてゐないといつてもよろしいが、支那事變がいつ如何なる時期に於て、どういふやうな形を取つて解決するのか、殆ど見透しがつくか分らないと考へられてゐるに拘らず、私共忌憚なき言を以て申上げれば、ヨーロッパの情勢が、今後私の考へるが如く發展をいたしますといふことになるといふと、この支那事變といふものは非常な影響を蒙つて、この事變の解決は皆様が或はお考へになつてゐるよりも更に早く解決をするのではないかといふやうに私は思つてゐるのであります。つまり私は本夕皆様にヨーロッパの情勢と支那事變といふ題でお話申上げるといふことは、ヨーロッパ自體の、ヨーロッパに發展しつゝある事件が、吾々に取つて最も重大な關心事でありまゝところの支那事變の將來の發展、或は終極を齎す上に重大な影響を及ぼす問題として興味を持つものであります。私はさういふ意味に於きまして、本夕は暫くの間ヨーロッパの情勢に就て私見を申述べ、最後に於きましてこの事態が今後支那事變の上に如何なる形を取つて影響を及ぼすかといふことに就て簡単な考へを述べようと思ふのであります。

であります。

現在のヨーロッパを私共が認識いたしまするに於きましては、最初に氣のつくことは、現在ヨーロッパを脅やかしつゝあるところの一つのクライス（危機）、これは二つのファクター（要素）がある。一つは何であるかといふとドイツであります。今一つは何であるかといふとイタリアであります。一口にドイツ、イタリアの樞軸、或はベルリン、ローマ樞軸といふが、ドイツ自體の考へてゐること、イタリア自體の考へてゐることは同一のものではない。ドイツにはドイツの考へがあり、イタリアにはイタリアの考へがある。そのドイツ及びイタリアの別個の考へといふものが、具體的に發展をする上に於きましては、ここに獨伊樞軸が出来る。その獨伊樞軸なるものヨーロッパに於て演じつゝあるところの事件自體は、現在に於けるところのヨーロッパの危機であります。この二つの印象を吾々が混雜して考へることになると、現在のヨーロッパの情勢を理解することが困難であります。かるが故にドイツ、イタリアを別個のファクターとして、ヨーロッパの情勢を考へて見たいと思ふのであります。

ドイツはヒットラー總統の権力が確立いたしましたして、今日に至るまで、いろいろなことをやつて

ゐる。最近に於きましてはチェッコスロバキヤといふものをして併合同様の状態にいたらしめたのであります。チェッコの問題が起ります以前に於きましても、彼の有名なミュンヘン協定の問題がある。これはズデーテン地方の併合に絡まるミュンヘンの問題がある。過去にラインランドの出兵であるとか、ロカルノ條約の廢棄といふやうなものが、ナチスドイツで行はれて来て、その問題がかたがついたかと思ふと、ポーランドに火がついてゐる。今日のナチスドイツのやつて来た事件といふものは、これは一體ドイツの立場からいへば、その事件自体が、それぐ、切り離された一つのものとして起り、一つのものとして終つたのであるかといふと、斷じてさうではなく、ヒットラーが一度び政權を握つてから、今日までやつてゐることといふものは、事件自体はそれぐ、性質を異にしてゐるが、結局一つの脈絡を持つてゐるところの仕事といふものは、終極の目的を達成するに異ならず、現在までヒットラーがやりましたところの仕事といふものは、終極の目的を達成するに至るところの準備行動であります。ヒットラーの考へてゐることは何にもやつてゐない。ヒットラーの考へてゐることをやりますためには、ヒットラーは是非とも準備をやらなければならぬ。その準備行動が今日に至るまでヨーロッパを掻き廻し、ヨーロッパを混亂に陥れ、ヨーロッパに危機

來を叫ばしめる事件の連続となつて来てゐる。ドイツが最後に望んでゐるところの目的は何であるか。ここに輕率にも最後といふ言葉を使ひました。或は最後でないかも知れない。私のいふところの問題が解決した時は、後の問題があるかも知れないが、今日、現在、只今に於けるドイツの終極の目的は何であるか、それは何にもやつてゐないといひたい。その終極の目的は何であるか。私ははつきり申上げる事が出来る。露領ウクライナの併合であります。ウクライナを完全にドイツの領土として併合する。これが現在ナチスドイツに於ける終極の目的である。恰度支那事變は日、滿、支の三ヶ國を不可分の一體として結合し、或は外力のこれに潛入することを許さないで、一つのブロック形態として、完全な秩序を作るのが終極の目的であるのと同様であります。

ドイツが今までやつた終極の目的は、露領ウクライナの併合であると申上げるより仕方がない。露領ウクライナの併合といふことは手も附いてゐない。今までやつたことは、露領ウクライナをやるために必要な準備工作であります。ミュンヘン協定の出来ました原因も、英獨の間に結ばれた海軍協定、ロカルノ條約の破棄、チェッコの滅亡、それ自体が、ナチの目的ではない。それは最後の目的に到達するためにヒットラーがやつて来た準備工作に過ぎない。かう私は申上げて差支へないと

思ふのであります。

露領ウクライナは何であるか、露領ウクライナに對する地理學的な解説をしなければなりません。ウクライナはロシア本土に於きまして、最も西に當る部分であります。ポーランドと境してゐる。一部は黒海に臨んでゐる。ルーマニヤにも境を接してをりますが、大部はポーランドに隣り合せになつてゐる。地域はどの位あるかといひますと現在の滿洲と略同様であります。人口は三千萬乃至三千五百萬といはれてゐる。どんな所にあるかといふと、ウクライナの地勢は大體に於て見渡す限り大平原であります。然もこのウクライナの大平原の間には黒海に注ぐドニエストル河が流れ、ウイッスラ河が廣漠たる大平原を流れてゐるが、これらの大河は支流を持つてゐる。その支流にはまた枝が出来てゐる。そのために今日滿洲と同じ程度の廣さを持つてゐるウクライナの平原は、まるで河や運河で張り廻らされた網細工のやうな場所であるといつてをります。廣漠たる平原でありまして、然もこれだけの運輸灌溉の便がある。これは世界に於て最も優秀な農業生産地帯であるといふことは申すまでもない。世界に於て最も多く小麦を産するところが三所ありますが、一つはカナダ、一つはアルゼンチン、今一つはウクライナであります。支那に江蘇省、浙江省が豊年であ

るならば全支那は飢えないといふ諺がありますが、ウクライナの首府でありますキエフには、ウクライナが實つたならばヨーロッパは飢えないといふ諺がある。それ位小麦が穫れる。小麦が穫れるばかりでなくて、ドニエプル河の下流地方は、石炭の産地であります。鐵も出るのであります。従てドニエプル河の黒海に近い方面は工業地帯になつてをります。ロシアは一九二七年以來五年計畫をやつてゐる。この五年計畫は、素晴らしい事業であります。この計畫のセンター（中心地）といふものが澤山あります。五年計畫の重要な中心地は、ドニエプル河の下流にレーニン（ドニエプル発電所）があります。その能力を全部發揮するならば、西部ヨーロッパが持つてゐる電力をこの発電所で供給する事が出来る。その発電所がドニエプル河の河下にある。それは五年計畫でロシアが作つた有名な発電所であります。今日のウクライナは豊富な國倉であるのみでなく、ロシアに於ける農業、ロシアに於ける重要な工業中心地となつてゐるのであります。ウクライナ人はどういふものであるかといふと、ロシアを作つてゐる民族はスラブ民族であります。ところが現在のウクライナを作つてゐる民族はスラブ民族ではありません。ウクライナ民族であります。宗教はスラブ民族はギリシヤ正教を信じてをりますが、ウクライナ人の大部分は新教徒であります。

言葉はロシア語を使つてゐるのがスラブ民族であります。ウクライナはウクライナ語を語つてをります。風俗も習慣も大體に於てスラブ民族とは異つてをります。

私がこれだけのことを申上げるならば、皆さんロシア本土にある重要なウクライナが、ロシアに取つてどういふ意味を持つてゐるかといふことが御推察出来ると思ひます。ウクライナはロシア本國に取つてはなくてはならない寶であります。そのウクライナはスラブ民族の手になくして、ウクライナ人の手にある。ウクライナ人はロシア帝國の時代から露領たること一世紀半に亘つてゐるに拘らず今に同化されてゐない。言葉も違ふ、宗教も違ふ、風俗も違ふ、習慣も違ふとするならば、吾々が平素國際的の常識として考へると、かかる民族が三千萬もゐるといふことになるならば、これがロシアから單獨に立ち上つて、ロシアの方策を嫌ふといふやうな事態の下に進むであらうといふことは、當然のことと思はなければならない。ウクライナ人は、共産ロシアになつてからばかりでなく、帝政ロシア時代から、ロシアの羈絆を脱して獨立をしたいと考へてゐるところの民族であります。これは現在のソヴェットロシアに於けるところの非常な苦痛であるのみならず、帝政時代のロシアに於ても、國內に於て最も困難な問題の一つとして算へられてをったのであります。

ところが只今申しましたヒットラーといふよりもナチス、ナチスといふよりもヒットラーといつてよいかも知れないが、終極の政策として露領ウクライナを併合するといふことを目的としてゐるのであります。しかしこの露領ウクライナを併合するといふヒットラーの政策は、ヒットラーの胸三寸の中に密かに隠されてゐる以上國策に非ずして、一九一九年ミュンヘンの裏街通に於て、ドイツ國民社會黨、所謂ナチスなるものが、はじめて呱呱の聲を上げまして以來今日までに、公に宣言をしてゐるところの政策であります。つまり當初に於ける政綱を見ますといふと、露骨に露領ウクライナの併合といふことが書いてあります。苟も現在のヨーロッパの趨勢、ドイツの今日までの希望に就て知つてゐる者がこれを見るならば、一見して露領ウクライナを併合するといふことは何人にも分るやうに、政綱の上に擧げられてをります。一九三一年以來は表向き胡麻化してゐる。ペーデルを取り上げて、はつきりヒットラーは露領ウクライナを攻略する意志があると天下に向つて宣言した。彼の特異な辯説で表白したのみならず、有名な著述『マイン・カムフ』—我が闘争—の中にはつきり書いてゐる。

皆さん、何が故にナチスドイツは、露領ウクライナを併合するといふのか、これを吾々は理解し

なければならぬ。ナチスドイツが他所の國が持つてゐる露領ウクライナを併合するといふのは相當の根據がなければならぬ。土地は廣い方がよいから併合するといふのでは餘り單純過ぎる。何かこれには深い理由があるに相違ない。それに就て私は豫め申上げて置くことは、ナチスの政綱といふものは、その初めから今日に至るまで、恐らくこれ以上の膨脹政策はあるまいと思はれる程膨脹政策を最初から執つてゐる。一九一九年にミュンヘンに呱呱の聲を擧げたナチスは一九二七年にはフェーダーといふ人が初めて正式の黨綱領を書いてゐる。フェーダーが初めて黨綱領を書いたその時ナチスの對外政策、對内政策はつきり天下に公示されたが、これを見ると驚くべき積極政策であります。膨脹政策であります。それらの事態に就てお話する時間はありませんが、その膨脹政策の最もつきりした一面は、自國の領土擴張政策である。一九三二年ミュンヘンで、ナチス黨大會があつた時に、十數萬の群衆を前にヒットラーが一時半の演説をやつてゐる。ドイツの領土膨脹政策に就てはつきりした演説をしてゐるのであります。どういふことをいつてゐるか、將來のドイツは、將來のヨーロッパの文化を救ひ、世界の文化をリードすべきドイツの國土は、現在の狹隘な國土を以てはやり切れない。將來のドイツ人が住む新たな國はこれより立派な國でなければなら

ない。それで吾々は更に領土を要すると宣言してゐる。その領土を如何にして獲得するか、歐洲大戰で取られた領地を取り返す、歐洲大戰で本國も多少削られてをります。植民地は全部取られてゐる。これを取り返す。これは吾々にもよく分る。ところがヒットラー曰く、ベルサイユ條約で吾々が喪失した領土を取り返すだけでは足りない。吾々は同じヨーロッパに於てドイツ人が立つてゐるところの國がある。これを併合する。オーストリーの併合、これはこの間用事が済んだ。ところがドイツが失つた領土を回復し、オーストリーを併合しただけでよいかといふと、それぢや足らんといふ。將來のドイツ人は大きな國を持つてゐなければいけないといふ。その土地を吾々は何れに求めるか、餘り遠方では困る。なるべく近所で探さなければならぬ。近所はたまたものではありません。そんならどつちの方向で探すか、吾々は如何なる方向に新しい領土を求めるのかといひました時に、ヒットラーが愉快な演説をやつてをります。吾々が更に西に進まんとすると雖もそこには勞徒らに多くして、益少いことであるから駄目だ。アルサスローレンを取るために、ドイツ國民が命限り戦ふといふことは、結果から見ると損害が大きい。これは算盤に合はぬから止めておく。その點フランスは安全です。アルサスローレンを取返しても仕様がなし。そんなら吾々は北西に向

つて進むか、英國海峽があつて兵を進めることは許さない。西南に向つて進むか、駄目。東南に進むか、アルプスの連峯が千古の雪を頂いて聳え、吾々の越ゆる能はず。残るは東ばかりだ。新しい領土を得るために進むべき方向は吾々の祖先たりしゲルマン民族は、一ヒットラーはゲルマン民族はといふ。ゲルマン民族と吾々が聞いたのではそれ程感じないが、ドイツといふ言葉を聞いたよりドイツ人はゲルマン民族と聞いた方が感激を感じる。偉大なローマ帝國を亡したのはゲルマン民族であります。一初めラインの河より起つて、だん／＼ローマに進んで今日のドイツの基礎を作つた。吾々の祖先たりしゲルマン民族は東に向つて進んだ。吾々も將來東に向つて進む。東方を見よ、萬里の沃野拓けて、吾人の來つて耕やすを待てり。ヒットラーの指差した所を見ると露領ウクライナと書いてある。兎に角東に向つて進んでウクライナを取る。

そんなら何が故にそんなにウクライナが気に入つたか。これが分つてゐなければいけない。ウクライナよりも少し取りよいところを取つたらよささうなもの、これは所有者が性が悪い。簡単に取れる所を取つたらよいぢやないか。それぢやいかん。私をしていはしめても露領ウクライナでない駄目なんです。

茲に於て吾々は歐洲大戰四ヶ年半の過去を省る必要がある。一九一四年の八月三日ドイツが初めてフランスに宣戦布告してから歐洲大戰が勃發した。兩來年を経過すること四ヶ年半、ドイツの有爲なる青年子弟はドイツ民族の名譽のために銖を握り、血を流して戦つたのであります。戦線幾千軒、ヨーロッパの宏大な平原に於て、アルプスの麓に於て、ヨーロッパの至る所で、ドイツの青年は戦ひ、世界の二十八ヶ國を對手にして、たゞ一つのドイツが戦ひ、然もこのドイツは四ヶ年半の間殆ど單獨を以て戦つたのも同じであります。トルコ、ハンガリー、オーストリーの道伴れはあつたが、私からいふならば餘り役に立つてをりません。この連中は寧ろ足手纏ひであつて、弱いのが味方してゐることは、善し悪しであります。をらんよりをつた方がよいといふ意見を持たれる方はチンバと二人三脚になつたことをお考へになると分る。ドイツの友達は脚が不自由である。それを二人三脚や、三人四脚をやつたら、自分の行動が束縛されて、ドイツは氣の毒であつたといつてよい。それで四ヶ年半世界の二十八ヶ國を對手に戦つた。世界の歴史は五千年に亘つてゐる。その五千年の歴史始まつて以來、一個の國民が、一個の國が四ヶ年半の長日月に亘つて世界の二十ヶ國以上のものを對手に戦ひ得た國民は他にはないのであります。この偉大なる事實は、ドイツはその時

滅びてをつても、人類の歴史の續く限り不朽不滅のものであるといつてよい。今日のドイツは驚くべき勢で復活し、それだけの能力を持つてゐる民族でありますから、如何に踏み躪つて見たところで如何に壓へ附けて見たところで、伸びるものは伸びる。四ヶ年半の間二十八ヶ國を對手に戦争をして最後に負けて止めたといふ。負けたに相違ない。負けたといつて、戦ひに負けたかといふならば、戦ひには負けてをりません。四ヶ年半彼等は、攻城野戦の間に於て未だ會て破れたることなし、勇猛果敢なドイツ軍の向ふところ殆ど敵なしでありました。西部戦線だけは膠着してをりましたが、あとはドイツ軍の向ふところ敵なしだ。四ヶ年半の悪戦の後萬策盡きて聯合國の軍門に降つた時もフォツシュ將軍とドイツの代表者との間に休戦協定が出来ました時に、數千軒に亘るヨーロッパの戦線に休戦ラツパが啾唳として響いた時に、四ヶ年半の悪戦のために軍服は破れ、顔は憔悴して、祖國のために、熱と勞と總てを捧げて戦つた青年子弟は塹壕に立ち上つた。向ふにも英軍、フランス軍が立ち上つてゐる。恩讐の彼方にあるのです。兩者ともに相見て茫然たり、擧手の禮を以て休戦ラツパを聞いたが、ドイツの軍隊は一人として、自分の領土に立つてをつた者はない。彼等の立つてをつたところの戦線は、總て敵國の領土であつたのであります。しかし戦は負けた。何が故に

負けたか。これはバトル(戦ひ)には負けなかつた。攻城野戦に於ては勝つた。何故負けたか、彼の敵は外にあらず、彼の敵は内にあつた。彼の敵はフランスでもなかつた。アメリカでもなかつた。英國でもなかつた。彼の本當の敵は國內にあつて、ドイツの社會民主主義者が挑發しました叛亂が至るところに起つて、國內の規則が亂れて内部的に崩壊したので、已むを得ず敵の軍門に降つた。ドイツの社會民主主義者は、どういふ材料で叛亂の挑發をやつたか。ユダヤ人を以て成る社會民主主義者が惡辣な宣傳をやつても、理由がなかつたならば叛亂は起らない。何が故に起つたか。何が故にユダヤ人の魔手に陥つたか、何が故に社會民主主義の思ふ壺に嵌まつたか。皆さん、之は物資の缺乏であります。戦争といふのは軍需品があつてよいのは勿論でありますが、なくても戦へる。有能な国民は軍需品がなくても拵へます。空中の窒素を固定した。一九一七年の末には、小銃彈の藥莢がなくなつた。ドイツの學者は紙に依つて藥莢を作つた。彈は正直です、銅の藥莢でなければ飛んで出んとはいはない。紙で作つても飛び出す。飛び出せば當る。軍需品はある方が益々結構であります。ないから戦争が出来ないといふ理窟はない。

もう一つ例をいひませう。張鼓峰の戦ひはどんな戦争ですか、それは一九四〇年と一九二〇年位が戦つた戦争であります。一九〇〇年で戦つてゐる。あの時分のロシア軍の整備は一九四〇年を代表してをりました。ロシア軍は飛行機を持つてゐる、タンクを持つてゐる、山砲を持つてゐる。機關銃は勿論のこと、小銃などいふまでもない。現在のあらゆる武器が與へられてをつた。これに對して皇軍はどういふ武装をしてをりましたか。兵力は三分の一に過ぎない。兵力が昔に三分の一に過ぎないのみならず、驚く勿れ、張鼓峰に於て苦戰奮闘して敵に勝を得た皇軍の將兵諸君は、僅かに小銃と、機關銃と、敵のタンクをやつつけるために用ひる〇〇〇〇といふ軍事的な武器、この二つ以外にない。皆さん、武器が戦争の將來を決定するものであり、武器がなくなつたら戦争が出来ないといふ眞理を語るものとするならば、張鼓峰の皇軍はいかに勇敢無比でも露軍に勝つことは出来ない。軍需品があればある程結構だが、なくて行けないことはない。極端にいふと荒木大將のいふ竹槍でも出来ないことはない。日本とアフガニスタンが戦争をするならば竹槍で結構と思ふ。軍需品のなくなるのは致命的であります。軍需品が缺乏してへたばるやうなドイツ人ではない。困るのは食べ物です。食料品の缺乏、これが一番こたへる。食ふ物がないといふのは、いかに頭のよ

いドイツ人も、空氣からパンを作つたり、砂から肉を作るといふ藝當は出来ない。その食べ物になつた。目はだん／＼凹こむばかり、頬はこけ落ちるばかり、お腹は裏表が相談するやうな状態では、皆さん、戦争は出来ません。これに乗じたものが社會民主主義者です。

もう一つ忠言したいのは、世界に澤山國がありますが、戦時に於て實際に外國からの供給が杜絶した場合に、自國の勢力範圍に於て、自國の武力を以て護り得る地域に於て、食糧の自給自足をなし得る、それならば何年でも外國と戦争が出来るといふ國はいくつあるか。餘計ありさうでせう。ところがヨーロッパには一國もないのです。英國の如きは、外國から食糧品の供給が断たれ買溜を食つてつ了たらそれで参る。英國で今日生産しつゝある自國の食糧品は、僅かに英國三ヶ月分を維持するだけしかない。本當は二ヶ月位なものです。だから三ヶ月四ヶ月間で完全に英國を封鎖したならば、英國は六ヶ月するとのびる。お腹は凹こむ、降参するより仕方がない。ヨーロッパはどこでもさうです。

ところがさういふ國が三ヶ國しかない。食糧品の供給を全然止められて、然も何等困らない。どこまでも戦争をやるといふ國が僅かに三つです。何處ですか、一つはソヴィエツト聯邦、今一つはア

アメリカ合衆國であります。今一つは、この今一つが完全な食糧を持つてゐる。アメリカより、ロシアより完全です。世界に於て最も完全な食糧の自給自足出来る國がある。甚だ相済まぬ次第であります。それは大日本帝國であります。實に有難い。皆さん、戦争がはじまつて三年になるといつて國民精神總動員などいつてゐるが、食べ物のあること、あること、いやといふ程ある。金さへ出せばどんなものでもあります。食料がもう少しなくなれば、國民精神も多少動員されるだらうと思ひますが、こんなに食べ物があつては動員のされやうがない。これは私の實感だ。

去年の夏日本に於ける物資の供給に就て各省が棉花はいくら、綿糸はいくら、綿布はいくら、鐵はいくらある、鉄鐵はどうと全部の物資を調べましたが、これは間違ひだらけです。日本人は美德をもつてをいつて物資の實際より五分の一か、六分の一にいふといふ善い癖をもつてをりますから、本當の統計が出て来る譯がない。これが私共こんな馬鹿があるかといつて、(さういふと偉さうですが)、私は二十八にして大學を出て、十ヶ年間大阪でメリヤス屋をやつた。その時に大阪の實業界の裏表をみんな見ました。政府が調べに来る。

「御主人棉花がいくらあるかと商工會議所から調べに参りました。」

「いくらあるか」

「六十個ほどあります。」

「そんなら十五個ほどいふときなさい。」

「それなら十五個と届けておきます。」

お役人は單純ですから眞青になつた。實際はその五倍位あるのだが、届けが悪いものですから丸呑する。學校を出て高等文官の試験を受けて、西や東も分らずその儘お役人になつたから、裏表は分らない。その儘信じた。

それは餘分な話であります。農林省の報告だけには驚いた。米、野菜、魚類、肉類を見ると、ここ何年戦争が続いても食糧品の缺乏で非常に危機に立つといふことは先づない。これだけでも實に有難いことです。ところが日本人は人より違つたもので、自分に與へられたものがあつてもそれは感謝せん美德をもつてゐる。中々日本人はよい徳がある。他所の人がもつてない、自分にだけ與へられてゐる。當り前なら感謝します。ところがそんなものは當り前と思つて感謝しない。人がもつてゐて、自分にないものだけを朝から晩までいつてゐる。日本人の口説を聞くと、日本人には何に

もないやうに思つてゐる。だから日本の経済力は、今にも潰れるやうに思つてゐる。これが日本人の美德とでもいふのでせう。封建時代の結構な日本精神であると思ふ。

その食糧といふものがなくなつた時には、もう戦争は出来ないのだ。私はドイツの戦争の末期、革命の起つた當時のことを委しく調べたいと思ふがこれは調べにくい。ドイツに取つては國辱の事實でありますから、外國に発表をしない。どこで何日に暴動が起つて、原因はどう、委しく調べようと思ひますが、中々容易に分らないのです。多少の材料を集めました、一九一七年七月か八月ドイツの或る西部戦線の兵隊が、お母さんのところに罐詰の罐に山程食糧品を入れてやつた手紙がある。その手紙は、皆さん、これはかうなんです。お母さんが戦線に於ける子供に手紙をやつた。—お前の可愛がつてゐる妹が肺病で死にかけてゐる。死ぬる程の病氣ではないと醫者もいつてゐるから毎日鶏卵を二つと牛乳を一合位でも飲ましてやれば妹は死なんでもよい。しかしその鶏卵の二つと牛乳一合を得るといふことが出来ない。私は一年の間これをやつてゐる。朝夜が明けないうちから出發して、十ばかりの村を鶏卵二つと牛乳一合のために歩いて、玉子一つ貰つて來た。玉子一つでは駄目だ。お前の妹の命も長くはなからうが、現在に於ては仕様がなから諦めてくれ——鶏

卵を一つ得るために、夜が明ける前から、日が暮れるまで廻らなければならない。十も村がある。ドイツはどんな風に村があるか知らないが、恐らく十里か、十五里は歩いたのでせう。戦線へはうまい物を持つて來る。兵隊さんは、頬がこけて、腹が裏表相談するやうでは戦争出来ないから、戦線へは食べ物をやつてゐる。その食べ物の半分を罐に入れて小包にして逆送であります。それが新聞に載つてをつた。一九一七年の春頃から戦線よりどん／＼故郷に送る食糧品の輸送でドイツは困つた。これで戦争が出来ますか。

さういふ話をすると豊葦原の瑞穂國の有難味がはつきりお分りになると思ふ。ドイツの勇敢無比な青年が、鎧を握り、血を流して祖國のために戦ふ、青年諸君は、それだけ國家に對して盡忠報國をいたしたに拘らず、食糧品の缺乏といふことでドイツは遂ひに負けた。ドイツの敵は外に非ず、内にあつた。

將來のドイツ人を偉大ならしめ、世界の文化の第一線に立たしめようとするヒットラーからいふならば、ドイツは何をさて措いても、食糧品の自給自足が出来る國にならなければならない。食糧品の自給自足が出来る國になるためには、最後の一錢まで使つてよい。最後の一厘まで犠牲に供し

てよいといふのがヒットラーの考へです。ドイツは世界のいかなる方面から食糧の供給を受けるか、立派な食糧品の供給地は遠方では困る。近所では何處にあるか。そこには萬里の沃野開けて、吾々の來たりて耕やすを待てり、世界第一の小麥の産地ウクライナがあるので、ヒットラーのいふのは當然至極である。ロシヤに取つては迷惑千萬であるといふだけである。これがヒットラーのウクライナ併合政策なんでありませう。

これをはつきりと彼が世界に向つて宣言いたしましたのは、一九三一年ミュンヘンのナチス黨大會で、十二萬人の大衆の前で一時間半に亘り演説をやつた。その時はじめて彼が、私が先程申した演説をやつた。はじめてロシヤに分りました。この演説をロイテル通信が取つたのです。ロシヤの幹部は頭から湯氣を立て、怒つた。同時にヒットラーはドイツの總理大臣であつて、それがドイツ國民十數萬の前に立つて『吾々は露領ウクライナを併合するのでござる』といつて、これを聞いたスターリンは怒つた。モロトフも怒つた。プロジローフも怒つた。赤軍の觀兵式でプロジローフは、『吾々の敵は西方にあり』といつてゐる。ところがこれは先にいつた方が勝であります。總理大臣モロトフからドイツの外務省に抗議を申し出した。『ミュンヘン大會で怪しからんことをいつてゐる。大使を交換し、隣邦親善の誼を重ねてゐる友國である。その友國の面前で、然も世界人環視の真ん中でロシヤの領地たるウクライナを併合するといふことを總理大臣のヒットラーがいつたのは國際儀禮に叛くものである。甚だ怪しからん、取り消してくれ』と申込んで來た。この時ドイツではリツベントロップが應對してゐるが、『貴電確かに拜承いたしました。貴國には誤解があるやうに思ふ。ミュンヘン大會に於てなしたヒットラーの演説は、貴方が仰しやるあの通りをいつてゐるが、貴君が考へられてゐる如くドイツの總理大臣としていつてゐるのではない。ドイツに於ける唯一の政黨にして最大多數の政黨たるナチスの首領ヒットラーがいつたことで、嘴が容れられないから、君には氣に喰はないかも知れないが、悪しからず』といふのです。それ以來ロシヤはドイツになぶられ通しであるから、不愉快であるので、日本をなぶりものにしてゐる。なぶられるのが悪い。外務大臣がウロ／＼してゐるから悪い。こつちの奴がこつちをなぶりものにしてゐる。私はさう思つてゐる。侮辱ばかりされ、ばこつちが侮辱しなければ差引零にならないから、ドイツの身代りに日本がなつてゐるといふ譯だ。

ドイツのナチスが考へてゐる政策の實施、ウクライナの併合政策は、口ではいふけれども困難が

ある。それは何であるかといひますと、ドイツはウクライナと隣同志であると都合がよいのです。ドイツと露領ウクライナとの間には、ここにキエフといふウクライナの首府があります。その間にはポーランドといふ國がある。ドイツはウクライナを併合するといふが、どうしたら出来るのですか。俺は併合するといつて出来るなら、どこにをつてもよい。掛聲ばかりでは出来ない。私はいかにヒットラーのために、考へて見てもひと戦争やらなければ仕様がな。それにはどうするか、兵隊を送らなければならぬ。ヘルメットの帽子を被つた勇ましいドイツの軍隊がここに飛びこむ。隣りなら壁一重やればよいが、ポーランドが中立であれば通れない。中立國を黙つて通るのは懲りこりしてゐる。パリを二週間の間に取つてしまふといふドイツの根本政策のために永世中立國として承認されたベルヂュームを通らんとした。中立國としてドイツ自體がこれに調印してゐる國である。このことが英國をして参戦せしめることになり『横暴なるドイツは自己の政策のために永世中立條約を蹂躪し、我が英國は黙視するに忍びない。國際公法の威儀を保ち、條約の神聖を維持するために立つてドイツ人と戦はん』とロイドジョージにえらい演説をさせるに至つた。中立國を通るといふのはよくよくのことでないやらぬ。ヒットラーはさういふやうにして兵をロシアに送れ

ない。私ははじめから、どういふことをやりよるだらうと見てをります。ヒットラーの政策と、ムツソリーニは理論的に來るから、吾々が先にどういふ風にしてこの問題を解決するだらうかと待つてゐると、ヒットラーは流石に偉いです。ポーランドはベルサイユ條約で、新しく再建された國であります。再建するには、維新の元勳の如く三人の偉大なるポーランド人があります。ピルスドスキー、パデレフスキー、ドームスキー、この三人がウイルソン、クレマンソーを利用して、ベルサイユ會議で、滅びてをつたポーランドを復興させた。ピルスドスキーは最近死んで國葬になりました。その當時に於きまして、私は新聞に書いたのでありますが、彼はポーランド建國の父であります。餘計な話であります。多少興味のある話なのです。日露戦争の今まさにはじまんとする時兒玉大將は、滿洲に於ける露軍との作戦を凝らすために、長靴を履いたまゝ参謀本部で寝たり起きたりであります。副官が或る晩

「閣下只今外國の青年が訪れて参りました」

「どんな奴だ」

「これこれしかじかの者でございます。」

「こつちへ通せ」

會つて見るとキリツとしてゐる青年であります。

「私はポーランド人ビルズドスキーであります。私はポーランドの革命黨員であります。貴方はロシアと戦争する積りでせう。」

「或は然らん。」

「そんなら私がお援けしよう。」

「どうして援けるか」

「日本は満洲で戦ひなさい。私はロシアが日本と戦つてゐる最中に後顧の憂あるがために安んじて満洲に於て戦ふことができないやうにポーランドで革命の煽動をやりませう。」

「それはよからう、君やるか」

「就ては一つ頼みがある。金を少し頂きたい。」

「よし、やらう」

兒玉大將は三百萬圓與へた。三百萬圓與へると同時に、

「お前一人では困るだらう、二人相談對手を與へようと、一人は田中義一といふのがベルリンにゐる。もう一人は明石といふ大佐がゐる。これも相當智慧のある奴だ。三人で相談して、革命の相談をやれ。」

といはれ、本當に最後には革命が起つた。非常な殊勳者であります。その人が活動してポーランドといふ國が出来た。パデレフスキーはピアニスト、ドームスキーは外交官でありました。日本の明治の三傑、ドイツ帝國を作つた人もウイヘルヘルム一世、ビスマルク、將軍モルトケ、三人ゐると一人前以上のことができるやうです。昔の諺は嘘ではない。『三人寄れば文殊の智慧』といふことがある。三人偉い奴が寄ると大きな仕事が出来た。

ところがポーランドのビルズドスキーが死ぬる前の年であります。偶々ベルリンにゐるところのヒットラーを訪問した。臭いなと思つた。ポーランド人は手に汗を握つてゐる。ヨーロッパ全土手に汗を握つて見てゐる。極東に於ける吾々も興味をもつてをりました。

ポーランドとドイツの間には厄介な問題が二つあるのであります。ポーランドは無の内から作り上げた國であるから、ポーランドを作るには、ドイツも犠牲に供せられてゐる。ドイツが弱かつた時

はよいのでありますが、ヒットラーのドイツが、復興の氣運を示し、ドイツがだん／＼興隆をいたして來るに従つて、ドイツに對してひどいことをしてゐるポーランドは氣持が悪くて仕様がな。今日は何かいつて來はせんか、晚にはいつて來はせんか、あすの朝はいつて來はせんか、悪いことはするものでないです。それを心配してをつた。その問題が四つある。

- 一、ポーランド廻廊問題
- 二、上部シレシヤ
- 三、ダンチヒ自由市
- 四、メーメルランド

これはドイツがポーランドを作るために犠牲に供せられたものであります。そのうちの例を一ついひませう。一つはポーランド廻廊、ドイツの地圖を開くと面白い現象を發見されるであります。ドイツが二つに切斷されてゐる。今のドイツは東の方にあるドイツは東プロシヤ、それだけは孤立してゐる。それから離れてこつちに以て行つて大きな胴體がある。首と胴體の間が切られてゐる。その間に他所の國の領地が入つてゐる。ドイツは領土が切れてをります。國際問題の研究家はポー



ランド廻廊といつてゐる。ベルサイユ會議はドイツを二つに切つた。首と胴を切つた。指か足の先が切り離されたのなら辛抱も出来るが、驚く勿れ首を切つた。何が故か、ドイツ、ドイツといひますけれども、切り離された東プロイセンといふところは、日本で申しますと京都や奈良を一緒にしたやうな大切なところ。ドイツの歴史を讀む人は夢にも忘れることの出来ない程大切なところ。ドイツの聖地であります。今までヒットラ

一、ユーゲントに向つて一度は必ず東プロシヤに旅行を命ずる。東プロシヤを遍歴して歸る聖地である。どういふ譯であるか。ドイツの偉大なのは十九世紀以後であります。十九世紀以後に於ける驚くべきドイツ發展の歴史は、全部東プロイセンが中心となつて出來たのであります。ドイツ大帝國の建設は誰がやつた。普佛戰爭の後パリ、ベルサイユ協定に於てはじめてドイツ大帝國の結成を告げました時に大帝ウイヘルム、總理大臣ビスマルク、將軍モルトケがやつた。そしてこの三人の人は東プロシヤの人、ポーヘンツォルレン家は東プロシヤの大名であります。十九世紀以後にポーヘンツォルレン家が繼續これをやつた。十九世紀以後のドイツの歴史を讀むと、その中に出

て来るのは東プロシヤの人であります。哲學界の有名な人カントも、ケーニヒスベルクの人であります。東プロイセンを抹殺したら近代ドイツはなくなる。そのドイツの頭脳ともいふべきところの東プロイセンを胴體から切り離した。何が故にやつたか。皆さん、ポーランドを作つたのは、クレマンソーとウイルソンであります。ポーランドはロシヤとドイツが一緒になつたら困るから、ポーランドを作つてやつたら、ドイツとロシヤが手を引くのが困難だらうとクレマンソーがやつた。ウイルソンは民族自決、ポーランドを復活させるならば、アメリカに於けるポーランド移民三百萬の投票が次には私のところに来るだらうといふのでやつた。ウイルソンは人望家のやうに人がいふが、ウイルソンがポーランド移民の投票三百萬票を取らうといふのが、今日ドイツに對してあれだけの殘酷な手術となつて現はれた。クレマンソーとウイルソンが、その時目に餘るところがあるからと文句をつけたのが、ロイドジョージであります。ポーランドが出来てこれでよからうといふ時に、ドームスキーといふ外交官、ちよつと嬉しいやうな顔をしたかと思ふと膨れ面をして、

『ポーランドといふ國は、物を食べる口ばかりあつて、排泄口はありません』

といつた。出口のない國は餘り有難いことはない。出口を拵へて下さい。口ばかりあつて、出口がない

かつたらその儘になる。クレマンソーとウイルソンが考へた。どんなに考へてもよい方法はない。クレマンソーがいつた。

『ドイツを二つに切りますか』

海に出る道の、ポーランドの領土には、ドイツのダンチヒがあつて、表向は國際聯盟であるが、『使ひなさい』とパリーで勝手にやつてしまつた。ドイツは二つに切られてしまつた。さういふことを知ればヒットラーがカン／＼になつて、やつてやつてやり捲るのは當り前です。静岡まで行く支那の領土がはじまつて、暫く支那の領土になつて、三島邊から又日本だと考へられますか。ドイツはその通りです。ヒットラーの演説の中に『吾々の尊敬する、元首たるヒンデンブルグ元帥が自分の生れられたところのプロイセンにお歸りになる時に、若しも汽車にお乗りになるならば、ポーランドの國境で引き降されて、トランクを調べられて、兩方のブランドを降されてトンネルを通過して又乗らうぢやないかといふことになる。かかる待遇を受けても仕方がないやうな、かかる不正がドイツ人に行はれてゐるのを吾々が黙つて見てゐることが出来るか』といつてをります。そこを通るのは胸糞が悪いからなるべく通らん。海を廻つて汽船で行きます。島に行くやうなものです。

ポーランド廻廊、さういふことになった。ヒットラー・ユーゲンツトに向つて説明すると、ドイツの少年はムカ、ムカして来るのであります。よし、どうしても取り返してくれる。これはクレマンソーがやつた。ウイルソンがやつた。今のドイツの少年はポーランドに對して敵愾心が起るのは當然であります。

だからポーランドは今日はやつて來はせんか、何かポーランドのことをいつてをりはせんかと、丁度さういふ状態であつた時に、ヒットラーの急電がビルズドスキーの所に行つた。ビルズドスキーは直ぐやつて來て、ヒットラーと會つた。新聞記者はどういふことをいつたらうか、今日はヒットラーが四つものを提議して、そしてこれを何日までに返せと強談判やつたのだらうか。出て來る時に顔色見た時は、談笑湧くが如き状態で、笑つて出て來た。『可笑しい』皆な怪しんだ。間もなくしてその理由が分つた。その時に有名なドイツとポーランドの密約が出來たのであります。どういふ密約か。

——ここに君と僕との間にも清算しなければならぬ問題がある。ビルズドスキーは分りませうな。仕儀によつては十ヶ年間延期することにする。——十ヶ間は安心してをられる。これは結

構なことをいつてくれた。十ヶ間はドイツのポーランドに對する要求は延期する。——但しドイツは貴國に對して承認を要求する。十ヶ間に於てドイツは何等かの必要があつて、軍隊をロシアに送らなければならぬ事態が起つた時は、ポーランドの領土を通過さして貫へんだらうか——ビルズドスキーは、よろしうございます。そんなことなら譯はない。どうぞお通りなさい。その時はお茶を汲んで待つてゐますからといふことになつた。それからドイツとポーランドの仲がよくなつた。十ヶ年間約束したからポーランドは安心しました。そして今日に及んでをつたのであります。

ところが皆さん、ヒットラーが權力を握つてから今日までやつてゐる政策は、全部ロシアを攻めるための準備工作であるといつてよい。その準備工作をだん／＼やつてゐるうちに、最近は何ヶ年計畫でやつてをります。天下知らざる者はない。ロシアを攻める準備と知らない者はない。やつて見るうちにヒットラーの慾が出た。ドイツは軍需品の供給はあります。難事とはいへない。自分の隣りにチェッコがあつて、ドイツに近い部分は、チェッコの軍需工業地帯です。あれをドイツに併合したら、都合がよいなあ、要求が先に起るのであります。理由はあとから拵へる。あれを併合したら都合がよいなあ、そして理由を考へる。ドイツ人が七〇%も住んでゐる地區ズデーテンドイ

ツ黨の首領ヘンラインを呼んだ。君やつてくれ、獨立、獨立、吾々はチェッコ人の暴壓に堪へん、しつかりやれ、吾々が援けてやると、これは説明せんでもよいのでその通りに行きました。ところが世の中はヒットラーの思ひ通りにもならないのです。

一體ズデーテン地方の軍需工業に就ては、珍しいよい軍需品ばかり出来るのであります。支那事變で、日本と支那と機關銃を使つてをります。日本のはカタカタいふ。あつ、あの奥にゐるといふことが分る。支那のやつはスーツといふ。あそこにもゐる。こつちにもゐる。音が小さいから分らない。調子の悪いのはカタカタといふ。調子のよい機械はスーツといふ。機關銃がそれだけ違ふ。支那軍の使つてゐる機關銃はチェッコ、スコダ會社のものを使つてをります。私は鎮江で高射砲を見ました。今買ふと三十六萬圓すると説明された。遺憾乍らあんなものは出来ない。だからそれを一緒にして、これはヒットラーの思ひ通りに旨くいつた。ところがこれが意外な結果を齎しました。ポーランドはこれを見たらびつくりした。ポーランドは考へ込んでしまつた。ドイツはあそこが欲しいと思ひよると何とか文句をつけて取つてしまふ。あれを戦争の時に通らせるといふことになるかと、通らして貰ふのも結構だが、その序でに全部貰つておくのも都合がよいといふことになるかも

知れない。これはうか／＼通らせたなら大變と思ひ出した。これはいかん、あの條約は困る。通らしてくれ、取られましたといふことになるかも知れない。ポーランドの態度は、パツと變つて、ロシアとポーランドは接近をはじめた。ポーランドとフランスと接近をはじめた。私はえらいことになつたと思ひました。君はヒットラーの乾分でもあるまいし、心配する必要はないと仰しやるかも知れない。私はがっかりしたです。えらいことになりよつた。私はヒットラーの乾分といふ譯ではないが日本のために心配する。私はヨーロッパがゴテ／＼する程結構だと思つてゐる。甚だ御苦勞であるけれども、ムツソリーニ君も、ヒットラー君も大いに元氣でゐて貰はなければならぬ。ムツソリーニ、ヒットラーに元氣がなくなることにすると、ヨーロッパが落ち着いて来る。さうすると極東に都合が悪い。だからしてウイスキーの高い時代に一つでも差し上げて元氣をつけて暴れて貰へば貰ふ程こつちは氣が軽いのです。ヒットラー、ムツソリーニの政策が大體順調に進んで行くといふことが日本に取つて都合がよい。これが蹟くといふことは日本に取つて都合が悪い。ポーランドがドイツから離れたといふことは、終極の目的奈邊にあるかといふことを知つてゐる吾々からいへばならぬことをやつたといふので心配するのは、日本帝國の運命のために心配してゐるのです。あと

で私は恥ぢた。力の足りんものは詰らないことを心配する。ヒットラーも一時は困つたに違ひない。その頃地圖を出して考へて見た。これはポーランドを通過するなんかといふことは考へられない。通過どころぢやない、ロシアを攻略するといふ態度を示すと、ポーランドはロシアとプラスになつてしまふ。ドイツの軍團と、ポーランドとロシアの聯合軍と一戦争やらなければならぬ。さうするとヒットラーの胸算用は崩れてしまふ。ウクライナを先にやらなければならぬ。腹背に敵を受けると、ポーランドがロシアの側についても大したことはありません。どうしたらよいか、吾々も日本のために考へて見ました。チラツと頭に浮んだ策はどういふ考へであつたかといひますと、ポーランドを通過してロシアに攻め入るといふことは地上の道であります。これが通れなくなつた。土地の上が通れなくなつたから、どこを通るか、土地より上を通るか、土地より下を通るか、何十萬の軍隊を飛行機で送る譯に行かないといふことになるならば、誰れが考へても同じ結論になる。土地を潜るより仕様がな。關門海峡に於けるところの地下道を作るといふのはどういふことをしたらよいか。ドイツのはじめの計畫は、ポーランドの態度豹變のためにやれなくなつた。地下道を掘鑿する。あの下の地下道は何といふ國か、ポーランドの態度豹變した時代は、あそこにチェツコ



スロバキヤといふ國がありました。これを地下道にして、ここを通過出来たら遙かに近くなる。ここは數千キロあります。この間は五十哩、これは露領ウクライナ、ここはルーマニヤ、これはハンガリー、これが舊オーストリー、これがチェツコであります。言ひ換へるならば、ポーランドが通れないならば、その役をチェツコにさしてしまへば、前より餘計よく、餘計近くなる。ここまですでドイツの軍隊が來られるやうにすればよい。併合するのも結構、保護國にするのも結構、チェツコがドイツの思ふまゝになるならば、ドイツの機械化兵團は、ここに駐屯して、一舉にして五十哩を突破して、ここに飛び込むことが出来る。誰れでも考へる。私も考へて見た。チェツコはフランスと友國で、ドイツとは仲が悪い。だから私はこれはあかんと思つた。ところがヒットラーは流石に偉い。そんなことで困つてをりません。

ここで説明を要するのは、チェッコといふ國は三つの部分からなつてゐる。ここはチェッコ、ここはスロバキヤ、ここはルテナヤであります。ところがチェッコとスロバツクとは民族が違ふ。スロバツクはチェッコの命令に服してゐることが嫌ひです。そこへ目をつけた。スロバツクの總理大臣をベルリンに呼んだ「獨立運動をやらんか、時期が來たらうちが援けてやらう。」

「やりませう」

「しつかりやれ、金が要つたら出してやらう」

「はア」と歸つた。『吾々はスロバツク人のためのスロバツクを建設する』チェッコ人と別にやらうといひ出した。ドイツは隅の方ちよつと通過してスロバツクにドイツの軍隊が入つた。スロバツクの獨立を認めた。獨立ぢやない、併合してしまへ。するとドイツと仲の悪いチェッコはどういふことになるのですか。西もドイツ、北もドイツ、南もドイツ、こちらもドイツ、完全にドイツ人に包圍されてしまつた。これぢやどうにもならない。これぢや生きて行けませんから、よろしい、お頼みします。併合して貰はう。それはよからう。これはこの間のことです。

私がここに於て皆様に申上げるのは、チェッコの滅亡といふ悲劇は、單にチェッコの滅びたとい

ふ問題ぢやないといふことを注意して貰はなければならぬ。ヒットラーはたゞ手續上已むを得ないからやつたのです。残つたのはルテナヤです。これは解決がついてをりません。ルテナヤにはどういふ人間が住んでゐるかといふと、ウクライナ人です。ここに大きな大山脈がある。これをカルパチヤン山脈といひます。これをウクライナ人が越えて、そして植民してゐる。これがルテナヤ人です。ルテナヤ人のことをカルパトウクライナといひます。カルパチヤン山脈を越えて來たウクライナといふのであります。南にはハンガリー人が住んでゐる。だから昔からハンガリーがルテナヤに擴がつてゐる。ハンガリーはヒットラーがやるでせう。これはドイツの忠實な乾分ですから……。ルテナヤは完全にドイツの勢力の下に置かれて、スロバツクは併合されて、チェッコに於ける地下道の工作は關門海峡の百分の一の努力で出來ます。

現在に於けるルテナヤの北東の隅はドイツ軍隊が集中されてゐるであります。するとドイツ軍が愈々ウクライナに入るといふ時には、僅か五十哩であります。ドイツの精銳なる機械化兵團が一日の行程であります。六時出發！さあ行けと、エンジンに唸りを生じてカルパチヤン山脈を越えてウクライナに入る。この道は、こつちがルーマニヤ、こつちがポーランド、或る時はルーマニヤ

を通過し、或る時はポーランドを通過して行く。ワルソー政府が慌て出した時には、もう通つてしまつてゐるから仕方がない。「ルーマニヤの方を通つて、君の方を通りはせん」ポーランドから文句を出した時はさういふばかりである。さあと入れる譯です。言ひ換へるならば、最近に於けるチェッコの没落は、ロシアに取つても容易なことでない。スターリンも、モロトフも考へてをります。ドイツのウクライナ政策は完全な準備を終つたといふことを意味するのであります。ドイツの敵は數千キロの向ふにあると思つてをつたロシアに取つて、チェッコの滅亡に依つてその數千キロの向ふにゐたドイツの軍團は直ちにロシアへ突入が出来る。この事態が生じたために、日露漁業條約に己むを得ず調印した。當り前でせう。私は函館を見ると、日本の驅逐艦、潜水艦がゐる。これから出掛けようといふ漁船が準備してゐる。函館市民諸君に私はいつた。何の騒ぎだ。黙つてやつてよからう。今のヨーロッパはどうだ。スターリンの足許まで既にドイツが迫つてゐる。ドイツの準備なるや、ウクライナは引つ繰り返るぢやないか。そんな時に四千萬圓、五千萬圓の漁業權益を擁護するためにそんなことを心配するな。函館の市民諸君、心配する必要はないといひました。幸ひなる哉、演説をしてゐる所に電報が來て調印したといふことが分つた。當り前ぢやないか。これ

は當つた氣味がありますが、實際はさうだ。既に漁業條約の問題にそれだけの重大性を持つて來てゐる。これでドイツの項が終りました。豫定の時間を越えてゐるのであります。イタリアをいはなければ話が済みません。

これだけの話をするならば、どういふことをお氣付になつたか、ドイツの考へてゐる本當の仕事の準備が今出來たばかりだ。ドイツの本當の目的は、まだ一指も染めてゐないのです。するとどういふことになりますか。ドイツを中心とするヨーロッパの混亂はこれより益々激しからんといふより仕様がな。ドイツはスターリンの足許に穴を開けたら爆弾を仕掛ける。最近はポーランドに向つて猛烈にいためつけをやり出した。ドイツからいふと、裏切者といふ肚があります。俺の準備は出來た。下の方に結構な穴を作つてゐる。お前みたいな奴にをられなくてもよい。さまあ見ろ。ダンチヒを返して、メーメルランドはどうだ。今に豆絞りの手拭を被つてヒットラーがやり出すのは目に見えてをります。本問題はまだく取り付です。ヨーロッパの不安といふものはこれより益々大になるであります。

更にイタリアのことを申しますと、イタリアはどういふことをやつてゐるか。ムツソリーニも思

ひつきをどん／＼やつてゐるのぢやない。一定の計畫があつて、それをやつて來てゐる。日本の新開見る人は、夜考へて、又夢見に依つてかういふことをやらうと思つてゐるやうに思ふ人がある。ムツソリーニがやらんとしつゝある仕事は、これはどういふやうなことをやらうとしてゐるか。これさへ分れば、今度どうなるか分つてをります。ムツソリーニのやらんとするところは、私は敢へてムツソリーニといはん、イタリアのやらんとしつゝあるところは、ムツソリーニがはじめてやらんとしたことではない。昔からやらうと思つてゐることなんですから、それをムツソリーニがやらうとしてゐるだけである。これは世界の國際問題の研究者の使つてゐる言葉で地中海政策、これをやらうとしてゐる。これは大變な政策なんです。これを完全にやる迄には、フランスを敵とし、ユーゴスラビヤを敵とし、トルコ、ギリシヤを敵とし、皆な敵にしなければならぬ。それなら地中海政策はどういふことか、四つ五つあります。

一、アドリヤ海政策

二、元伊領奪還

三、伊人植民地問題

四、エチオピア問題

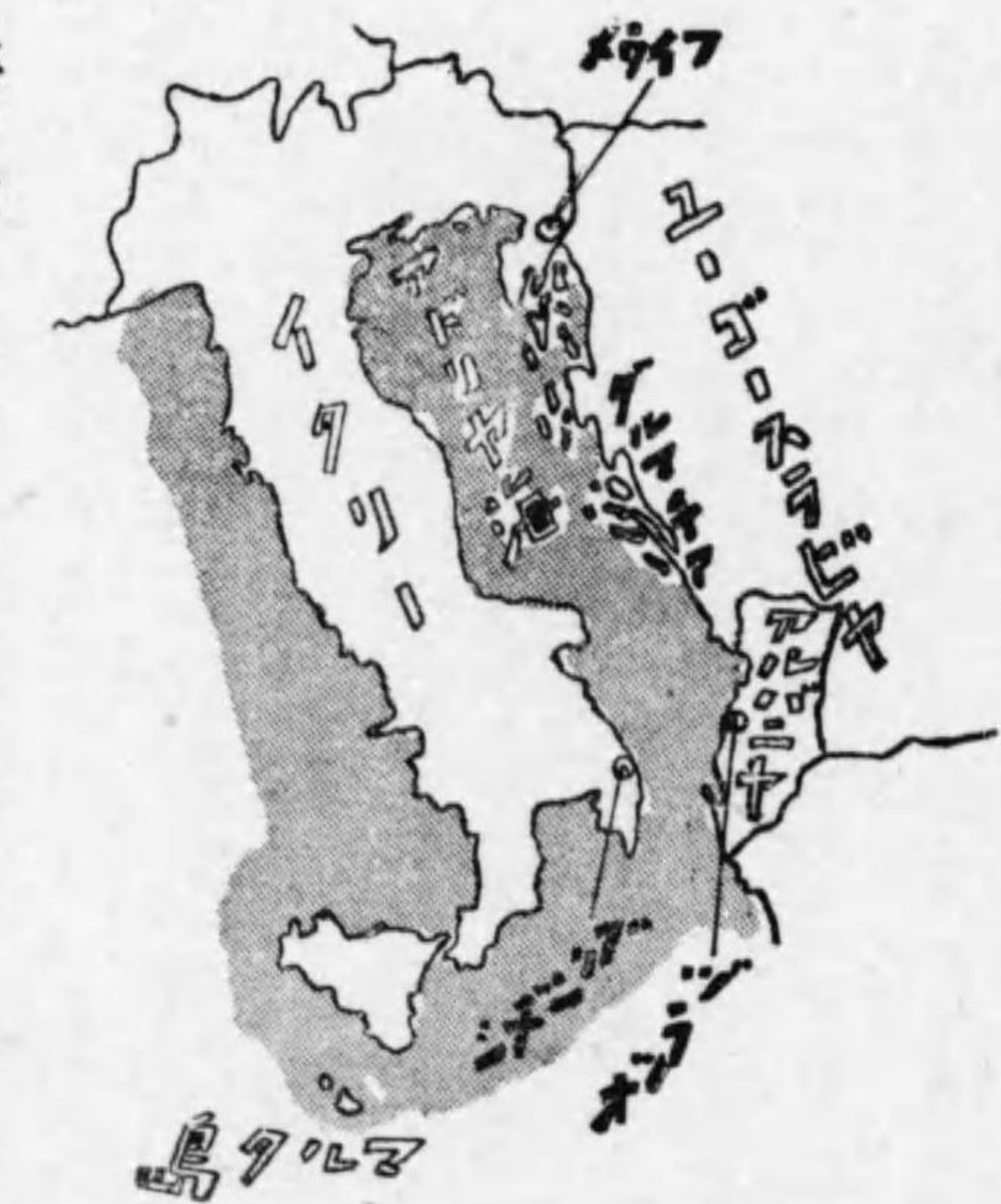
まだあるのですよ。數が多いから大事なところを擧げておきます。

アドリヤ海政策は何であるか。あとで説明します。元イタリア領奪還はどういふことか。十九世紀になつてからイタリアの領地であつたところが、外國に取られてゐるところがあるので。それを全部取り戻す。例を擧げませう。フランスが取つてをりますサボイ、ニース、コルシカ、皆なイタリアの領地、母音で終つてをりませう。行政官は平氣で昔の地名を改める。私は河内でありますが、河内を三つに切つて、北河内、中にあるのを中河内などいつてゐる。ところが昔の歴史は皆な死んでしまつた。ところがサボイもイタリア語であり、ニース、コルシカもイタリア語で、その昔イタリアの領地であつたといふことは地名で分る。それをフランスから取り返す。マルタといふところがあります。英國の大海軍根據地で、長靴の足許にあります。これも地名はマルタといつてこれを見たらイタリア語といふことが直ぐ分る。これも取り返すといふのです。まだ／＼ありますがいひますまい。ギリシヤの持つてゐるのを取返すのは分る。フランスの持つてゐるのを取り返し、英國の持つてゐる海軍根據地まで取り返すといふのです。

三番目のイタリアの植民地を取返す。チュニス、あれはイタリア人の土地か、フランス人の土地か、譯の分らないところで、ゴツチャになつて植民したのです。チュニスに於けるフランス人は、イタリア人の半分しかない。だから人間の數からいつて、即ち民族自決の理想からいふならば、チュニスはイタリアの植民地になつてゐなければならぬ。ところが二十世紀の初めにフランスが兵をチュニスに送つてフランス領と宣言してしまつた。イタリアは兵力がないので、泣寝入りをして、それからイタリア人とフランス人が角突合ひをはじめ、朝から晩まで喧嘩をしてゐる。ムツソリーニはイタリア人が餘計をつて、イタリアの植民地であるから、イタリアの領土であるといふのです。第四のエチオピア問題は、アチスアベバ鐵道がフランスの鐵道であります。あの鐵道の權利を半分寄越せといふ。それからスエズ運河の渡航權をイタリアにも英國とフランスと平等に寄越せといふのです。さうしないとエチオピアの安全を維持することが出来ないのであります。これがエチオピア問題であります。

ところが最初に擧げてをりますアドリヤ海政策は、どういふものであるかといふとイタリアといふ國は長靴のやうな國であります。これはアドリヤ海、これがイタリア、これがユーゴスラビヤ、ユ

ーゴのこの分を稱して今はユーゴスラビヤですが、これは大戦前はオーストリーハンガリー敵國の土地であつた。ところがイタリア人は二つの理由に依つて、このアドリヤ海の周圍を完全にイタ



水雷を敷くといふことになる、アドリヤ海は戦時も安全になる。

今一つの理由は、イタリア人は海岸に植民してゐる。だからイタリア人が住んでゐるところは、

リーの領土を以て取り囲みたいといふのが昔からイタリアの傳統的國策であります。一つは國防の關係です。イタリアの國防をやらうとする、ここに敵國艦隊が出来ると困る。だからこの海岸を完全にイタリアの領土にして、アドリヤ海がイタリアの自由になり得た曉には、イタリアの國防は安全である。ここにはプリンチン、こつちにはヅラツオといふのがあります。この二つの軍港をイタリアが握つて、この間に機械

イタリア領にしたい。これは人情であります。これがアドリア海政策であります。

これがあるために三國同盟の情誼あるに拘らず、同盟國たるドイツ、オーストリーと別れて態々フランス、英國の味方となつて歐洲大戰に戦つたのであります。三國同盟が、ドイツ、オーストリーハンガリー、イタリアの國に結ばれてをつた。戦争がはじまつた時にオーストリーがイタリアに行つて「君、味方してくれ」といつた。「三國同盟をいふのは駄目だ。君の方が條約に違反してゐる。同盟條約の中に、戦争をやらうとする時は、豫め相談するといふことが書いてあるのに、勝手にはじめたぢやないか。だからイタリアは三國同盟に依る義務を履行する必要はない。條件次第に依つて味方しよう」といつた。「條件とは何であるか」と來た。淺ましいものです。「お前の味方するには條件がある。イタリアのアドリア海の政策を知つてゐるだらう。アドリア海の方はイタリアで護りたい。君は向側を持つてゐる。向側全部呉れんか。」「馬鹿なことをいへ」イタリアが向ふにつくか、こつちにつくか大違ひであるから、選挙をやつて人の一票取るか、取らんか、二票違ふ。それと同じやうに、向ふにつかれたら大變ですから、イギリスはやきもきして大事の前の小事大きい虫を生すには小さい虫を生さなければならぬ。イタリアの沿岸位イタリアに呉れてやるこ

とに依つて味方が出来るなら安い話ぢやないか。やつてしまつたらどうだらう。自分の物でないから氣前のよいことをいひますが、それはその通りです。ところがいくらいつても、オーストリーはやらうといはない。同時にオーストリーはドイツ軍の勢が強かつたので、勝てると思つてをりました。到頭この交渉が決裂すると、同時に世界に向つてイタリアは宣言した。オーストリーは戦争開始の當時に三國同盟に反する行爲をなした。條約締結當時の條件に基き脱退をする。中立になつた。するとフランスと英國の方に味方せよ、條件に依つてはとかうやつた。どんな條件か、ロンドンにお出でと、ロンドンに呼んで、ロイドジョージ君を中心にして、イタリアとフランスの全權で相談した。アドリア海政策を認めること、第二のトルコに於けるアナトルヤ地方をイタリアに呉れること、ドテガンス群島をイタリアにくれること、言ひたい放題の注文をつけた。たつたそれだけかといふ顔をして、それ位のことなら大賛成、本當にくれるか、そんなら證書を書かうと、ロイドジョージ、クレマンソーも調印して、イタリアの全權オランダも調印して、目出度く出来上つた。けれどもこれは敵國の領地であるのであります。戦争に勝つたら敵國の領地をやるので自腹は痛まん。アドリア海はオーストリーが持つてゐる。よし／＼やらう、フランスも英國もニコ／＼で皆な上げ

ようといふことになつたから、イタリアは戦争をはじめた。三年半、これに依つて失つた壯丁百五十萬、三年半戦つてその當時に一九一八年に非常な負け方をやつたことがあります。一遍に五十萬人退却した。ベニス陥ちさうになつたことがある。ムツソリーニはに當時軍曹でありました。それで思ひ出しましたが、ヒットラーも歐洲大戦當時は軍曹でありました。今は軍曹時代です。今は軍曹ばかり偉い人が出来てゐる。

ところがその結果戦争は勝つた。イタリアが勝つたのではないが、ドイツが負けたのであります。そして終つた。パリに於て媾和會議が開かれる。イタリアへも招請状が行つた。胸算用をやつて旨いこと書いてある。これもある、これもある、捕らぬ狸の皮算用で、同じところを積んだり崩したりして、結構な夢を見續けてパリで會議が開かれた。イタリアの順番が来て、イタリアの要求するところ密約がありますと突き出した。クレマンソーとロイドジョージは、そんな條約があつたか知らん、まんざらなかつたでもないかとキョトンとしてゐる。國と國とはこんなものですよ。するとそれを見てをつたのがウイルソン、イタリアが參戰する時に英國、フランスと條約した。ウイリソンが威猛高に宣言をした。ベルサイユ會議は英國とフランスとイタリア三國に依つて出来た

會議ぢやない。アメリカ合衆國、日本帝國やその他三十餘ヶ國が關與してゐる。かるが故にベルサイユ會議に於ける決定は英國とフランスとイタリアの意思に合致したといふことでは決りません。これをこの際改めて宣言してゐる。三十有餘ヶ國の意志が合致しなければならぬ。會議の首腦者たる五大國の意見が一致しなければならぬ。これをオランダ君知つておかなければいけない。ロンドン密約があつて、いろ／＼なことが書いてあるが、アメリカ合衆國はこの條件の大部分に對して絶対に反對であると宣言しました。えらいことになつて了つた。それから面白い。長い間オランダは頼んで見たり、愚痴をいつたり、怒つて見たり、やるたんびにウイリソンが威猛高になり、そしてクレマンソーもロイドジョージも一つも助けないので。遂にオランダは窮地に陥つて何にも得られさうにない。そんなら俺は脱退するといつて見た。何とかしてくれるだらうと思つて、さういつた事が、いつたばかりで、仕様がなから、ホテルに歸つた。迎ひに来るだらうと思つたが迎ひにも來ん。ローマに歸れば來いといふだらうと思つて、ローマに歸り、耳をたこにして電報を待つてゐたがやはり來ん。行かなければあとで勝手なことをされたら大變、行かん譯にいかないの、招ばれもせんにノコノコ出掛けたといふ状態であります。結局に於てロンドン密約を九〇%

まで踏み躪られた。一番北はフィウメであります。その次はダルマチヤ、その南はアルバニヤであります。これを全部要求した。ところが皆なくれない。流石に憤慨したのは詩人ダモンチオであります。イタリアにどういふやうな缺點があるにせよ、アドリヤ海の政策を全部踏み躪ることは怪しからん。俺が取つてやると、ムツソリーニを伴ふて飛行機に乗つてフィウメに向つて單獨行動を起し、そのお蔭でフィウメだけが取れて、ダルマチヤはイタリアと仲の悪いユーゴに與へられた。アルバニヤは獨立國にされて、あとの條件は皆な踏みにじられ、イタリア人は絶望の極に陥つた。百五十億の金を使ふことは大變です。三ヶ年半苦しい戦争をした。イタリアは利益のために名譽を賣つたと見られるではありません。敵國の政策のために名譽を賣つて、分に過ぎた犠牲を拂つて、戦争の結果何も得ることがなくして、イタリアに残れるものは恥辱ばかり残つた。國民は絶望のドン底に陥つた。イタリア全土至るところにボイコットが起り、工場煽動が起り、示威運動が起り、このまゝでうつちやらかしておく、一、二ヶ月で滅びるであらうといふ状態に来て、救ひ難い憂鬱な現情を見てをつた男がある。フローレンスに於ける或る新聞社の編輯室で、この儘の状態でイタリアを放棄するならば、ビクトルエマニエル一世以來のイタリアが滅びると立ち上つた者がムツソ

リーニであります。それは普通のイタリア人と語つても駄目だ。彈丸の標的となつた者が結束すべきであると、戦友を呼び集めて黒シャツを着て、共産主義者と彈丸の中で市街戦をやつてゐる。そして内閣を引き渡せと談判した。ファシスト十萬のローマ大進軍が起つた。ローマに出で、内閣は瓦解してエマニエル三世陛下は政權をムツソリーニに與へられた。イタリアの獨裁がここに起つてゐるのであります。どうかしてイタリア人の昔からの政策を、どうかして歐洲大戰に於ける苦い經驗を吾々を取り返すことをせんければ本當に生き返ることが出来ない。イタリアの政權を握つたらイタリア人の要求、これはどうしても貫徹しようといふ獅子の如き意志を以てこれを實現しようと考えた者がムツソリーニであります。今日まで彼はそれを名付けて準備工作をやつて來たのであります。その準備工作が大體に於てカタがついてこれより實行に移らんとして最初にやつたものがエチオピア問題であります。これはイタリアの要求通りになりました。

日本が支那事變をやるのに英國、アメリカ愚圖々々いつてゐる。權力者の階級には總てそれがある。日本の權力者の階級に英國、アメリカが怖くて仕様がなないので、支那事變が起つて今日までどれ位日本が損をしてゐるか分らない。何を恐れるか、アメリカの艦隊來つて戦へといつても來はせ

ん。對手が強ければ強い程よいが、支那が弱いから困るのです。下等動物だから困るのです。下等動物には急所がない。みみずを切つても生きてゐる。五つになつても、六つになつても生きてゐる。それが今日の支那だ。上等の動物になれば、急所を突かれたら引繰返へる。下等動物の支那は尻尾を切れば尻尾ばかり撥ねてゐる。胴は胴で別にやつてゐる状態では始末にも何にも負へないものであります。だから英國、アメリカ恐れる必要はない。然るにこれを恐れてゐる連中があります。イタリーのエチオピア政策遂行の途中に當つて英國の大艦隊は目前マルタ港にゐた。イタリーの海岸に立てばマルタの島は見えてゐる。一千万噸に近い艦隊の掌中にある。六、七百萬噸の艦隊を持つてゐる。それが示威運動をやる時に、東アレキサンドリヤからジブラルタルに至るまで示威運動をやる時に、ムツソリーニは強硬だつた。あの氣魄と膽力と、あの自信で以てしたならば支那事變の如き何ですか、日本はそこへ行くと詰らん。

中野正剛君が先達ムツソリーニに面會すると、彼は「今日の日本は何故英國、アメリカに遠慮するか、私は譯が分らない。今日の日本の地位、日本の力を以てすればイタリーの如きは何でもやつて見せるぞ」といつたといふことです。

イタリーに聞かされなくてもよく分つてゐる。ところが日本の國策を指導する階級に英國、アメリカが怖い、怖い怖いでも足も出ん連中がゐるから悪い。これはこれ以上いひませんけれども、國家の大患これに過ぎるものなしと私は考へてゐる。然もその人が本當に愛國者であつたら餘計始末に負へない。國のために悪い。私の餘憤が出て御免下さい。

ところがその次にアドリヤ海政策をはじめた。アルバニヤを占領したことは分りませう。これ以上説明することは野暮だ。イタリーは手をつけたばかり、ムツソリーニ君が腕に縊をかけてそして一杯葡萄酒を飲んで力まなければならぬ仕事です。皆さんこれだけあるのですよ、ヨーロッパの情勢は誠に楽しみです。

私は先程ドイツの政策を論じた。ドイツも本當のものはやつてゐない。イタリーの政策を論ずるに當り、最後の目的はこれからはじまる。一步、二歩踏み出した。これから本仕事になる。イタリーとドイツと本仕事になるとどうなるか、ヨーロッパの危機は今日より益々増加する。破裂せん方がよい。歐洲に大戰の起るのを待つてゐる人があるやうだが、起りさうだ、起りさうだ、性の悪い中風のやうに起る状態が長い程大日本帝國に取つて、それが一番都合がよいのであります。何が都

合がよいか、さういふ状態が続くに從て遂に動かされるものは英國であります。英國に取つて一番大切なところは支那か、支那も大切であるが、足許が一番大切だ。首の方が大切だ。その首の方がそれだけ不安な状態に於て、白人常に自分の首を締められるが如き状態におかれるならば、英國は考へざるを得ない。支那の拾收のことでは日本を敵にして怒らしておくといふと面白い。早く支那から手を引いて、引くのみならず蔣介石に因果を含めて、この戦争を止めさせるやうにした方が英國の得策ぢやないかといふことを本當に英國人が考へる時代が今後にはじまるのであります。私は大體今年の夏頃になつてそろ／＼しらみはじめる東の方となるのぢやないか。汪兆銘がハノイに遁れたから抗日政權の足許が亂れ出した。抗日政權は盤石の如きものではない。支那の抗日政權は汪兆銘の脱出以來フラリ、フラリし出したことは事實であります。歐洲が現在の如きでは英國はあゝも思ひ、かうも思ひ、英國が迷ひに迷ひ出すといふと、その結果は蔣介石の抗日政權に行く。今の英國が一番苦しんでゐると思ふ。現在の蔣介石が一番苦しんでゐると思ふ。ロシアが何が出來ますか、英國に何が出來るか、私は今の英國人が蔣介石が頼みもせんのに出掛けて行つて、これは容易ならん、型をつけた方がよいねといふことを言はざるを得ないやうな立場になりはせんか。ヨ

ロッパに今日の如き情勢が續き、だん／＼悪化する事態になつて來るならば、英國の蔣介石に對する援助は弱る。弱つて來れば來る程大日本帝國は都合がよい。私はその點に於て噴火山上に踊りつゝある現状を甚だ愉快氣に眺めてゐる一人であります。今後益々しつかりやつて貰ひたいと思つてゐる。しつかりやつて貰ふために、ムツソリーニ、ヒットラーの兩君大いに健康であつて大いに元氣を出して貰はなければならぬ。ヒットラーが一つ頑張るならば漁業條件が解決する微妙な状態にあるから、大きな聲を張り上げて、引繰返して、力みかへつて貰はなければならぬ。それにはどうするか、たゞ吾々が極東一萬海里の彼方よりフレ、フレといふ掛聲をしたばかりでは相濟まぬ。本當にヒットラーに勇氣をつけ、ムツソリーニに勇氣をつけるには、吾々が拂ふところの犠牲がなければならぬ。その犠牲とは何であるか、敢へていふならば、日獨伊防共樞軸を改めて、日獨伊軍事樞軸と變更することがヒットラー、ムツソリーニをして、更に更に百倍の勇氣を鼓舞せしめる所以であると私は信するのであります。それをやることに於て多少の犠牲を拂はなければならぬ。考へなければならぬことがある。そして日獨伊軍事協定といふものはつきり結ぶのだ。ヨーロッパに對するためには吾々も極東に於て一役ぎばるといふことを天下に向つて宣言するならば

これはよい葡萄酒を寄附するより遙かに元氣がつかます。この國策をはつきり吾々がやるといふことが、支那事變が一番早く解決すると思ふ。支那事變を早く解決せんとするならば、大日本帝國は、堂々たる態度を執ることが大切である。これを日本の國論となし、日本の逡巡する輩を鞭撻して、ベルリン、ローマ、東京樞軸を軍事的性質に於て本當に生き返るといふことになりますれば、私は日本の運命も自ら開拓されて、問題は解決が早いだらうと思ひます。長い間であります。これを以ちまして一應の話を終ります。

—一四・四・一六一—(文責在記者)

時局と婦人

評論家 山田わか

日支事變で皆さまのうちにも随分胸を痛めていらつしやる方が澤山おいでになると思ひます。戦地に息子さんをお送りになつたり、御主人をお送りになつたり、お父さんをお送りになつたり、お一人、お一人お考へになりますと、お胸の痛いことが随分多いことを重々御察し致します。けれども全體として、日本國として、否、全世界の幸福といふことを考へます時に、皆さまにはその胸の痛さを我慢して頂かなければならぬといふ實狀に今はなつてをります。日支事變は随分大變なことで御座いますが、この事變の大きな副産物といたしまして、女性の力が大いに用ひられるようになりました。女性の力を借りなければこの國難は突破出来ない、かういふ氣風が今出來上がつてをり

ます。政府が何か新しい方面に仕事をし出さうとする時にいつでも女性を加へなければならぬといふ傾向になつてをります。物價委員會が出来る、女性も入れておかなければならぬ。貯蓄委員會を作る、女性に働いて貰はなければならぬ。中央社會事業委員會を作る、さあ婦人は誰れ〜を入れよう。厚生省では軍事援護を目的に、遺家族援護のために婦人囑託が出来ました。それ等の委員會のうちのいくつかにも私も入れられることになりまして、そして、政府直屬の委員會の委員になるのであるから履歴書を出せと要求されました。私は此の年になるまで、まだ、さう云ふものを書いたことが御座いません。又、書くことがあるやうな氣も致しません。けれども、書かなければなりませんから、有りのまゝを書きました。

即ち、神奈川県三浦郡久里濱村、小學校尋常科四年卒業。明治三十七年結婚、家事、育兒の合間に獨學、執筆、昭和九年良人死亡。以來母子保護事業に従事。

かう云ふわけで、私程無學な、ものを知らない人間は世間に少ないですが、それなら、何にが私をして今日社會的に働かしめてゐるかと思つたと、それは、私は女としての自覺を持つてゐるといふことだけでございます。男子とは別な存在、女性である。女性は結局民族の母である。これだ

けの信念を私は持つてをります。

明治の末期に日本に婦人問題が始りまして、日本に婦人問題が始まつたと申しましたが、日本に生れたのではなく、西洋から入つて來た女權主義、女も男と同じ人間だといふ建前から、學問に經濟に、社會上の位置總ての點に於て男女平等に取扱へといふ主張が盛んになりました。その頃私は三十五、六になつてをりました。總て女も男と同じでなければならぬ。男と同じやうに學問し、男と同じやうに經濟的に伸びて行かなければならぬといふ考へ方です女も男と同じやうに、あらゆる方面に、伸びて行かうとすると、家庭は煩はしいものに考へられて來る。母の生活は、母性生活は、女性向上の障礙物に考へられて來るそして「家庭は女性を幽閉せしめるところの牢獄なり」と云ひ、「母性は女性向上の障礙物なり」と申しました。

その頃は一般に西洋思想にかぶれて居りまして、此の女權主義的思想にも若い婦人達がグン／＼傾いて行きました。私もさうか知らんと思ひました。この思想からいふと私の妻、母の任に忠實な生活は奴隸の生活、奴隸なんていやだなと思ひました。けれども、その所謂奴隸の生活を脱して自分の思ふところに、學問的に經濟的に行けるか、子供を放つておいて自分だけの生活を安全に、

自分だけの知識の向上を圖ることは私に出來ない。ですからここに私はとても氣分が暗くなつて、二年位は悩んだものでありますが、だん／＼考へて見て、これは女權主義の方が間違つてゐると云ふ確信に到達したのです。何故かならば我が子をここに放つておいて、そして自分が經濟的にどんなに有力になつたところが、どんなにお金が澤山あつて、自分の生活が經濟的に安定しても、子供が淋しがつて自分がゐないために病氣になつた、怪我をした、良人が始終妻が飛んで歩いてをつて不幸である、不便である、良人を不幸にしてしまひ、子供を可哀な状態に陥れて、自分だけが經濟的にどんなに有力にならうが、智力的に伸びようがそれは斷じて幸福ではないと考へました。

結局私は自分の生活でだん／＼考へて來て、一體私の家庭——つまり私の家庭を見本にいふのです、どここの家庭だつてさうです——で一番大切なものは何だらう、家族全體を一番幸福にするものは何だらう。お金が澤山出來ることか、皆な學者になることか、といふとさうぢやない。私の家庭で一番皆なの幸福になることは、皆なが健康で、子供がだん／＼伸びて行くことである。つまり子供がだん／＼大きくなつて、丈夫になつて、賢くなつて行く。これが私の家で一番幸福です。それで子供を第二國民として立派に育て、行くために私共は母としての知識も必要であるし、經濟力も必要

である。それで私はかういふ風にだん／＼考へて來て、私の家庭で子供中心といふことが一番よいこと、子供を中心として考へる時に父も母も脱線出來ない。總て子供の幸福を中心といふことが人間の道だといふことを考へて來た。一つの家庭がさうである。國として考へてどうであるか。國として一番大切な仕事は何であるか。國として一番大切なものはやはり國民です。國民が健全でそしてだん／＼よくなつて行く。さういふ風に考へますと、私はだん／＼かういふ風に思つて來たのです。太古の昔、日本國土に日本民族の生命が現はれて、今日の大國民となるまで民族の生命線が連綿として流れて來てゐる。日本國としては、この民族の生命を安全に護つて之を向上させて行く。ここに國の中心事業がある。こんな風に考へて來たのです。それで、學問の進歩も必要、産業の發達も必要、經濟組織、教育制度皆な大切なものです。皆な大切なものではあるが、これ等は皆如何にして日本民族の生命線を安全に保つて行くか、これを向上せしめて行くかと此處に目的がある。學問も産業も、それ自身が目的ではない。それを利用する者があつて始めてさういふものが有益である。そして、それ等を利用する者とは國民自身である日本國に取つて一番大切な國民、其の者の生命線擁護は誰れがしてゐるか。これは母がしてゐる。どこで母がこの聖なる仕事をしてゐるか。家

庭でしてゐる。私の家庭でも、皆さんの御家庭でも日本民族の生命線が一本づゝ連綿として流れて來てゐる。この生命線を如何にして安全に保たせるか、向上させるか、ここを中心に國の仕事はして行かなければならない。國家的に民族的に、人類的に考へても、私共母は其の運命を兩手に握つてゐる。かういふ風に私は考へて來ました。今までは、經濟力を持つてゐる經濟的に働いてゐる、良人が中心、即ち主で、妻はその附屬品であつた。従つて、子供は良人の子です。良人の子を生むための妻は機械でありました。單なる道具でありました。今までそんな風に考へて居りました。それが大變間違つたものであると云ふ處に私は氣が付きしました。男尊女卑の思想で、男だけが偉くて女は詰らないものと考へてゐました。女は何をさせても男に叶はない。男のするだけのことが出來ない、故に女は劣等だと。かういふ定評でした。すつと昔から何をさせても男がするだけ女には出來ない。事實その通りです。つまり、智力でも腕力でも、いつも男の方が勝れてゐると。それはさうです。けれども女は男と同等には出來ないが、しかし眞似は出來るのです。男が飛行機に乗れば女だつて飛行機に乗れます。女だつて鐵砲かけます。女は男の眞似をしようと思へば何でも出來ますけれども……。どうしても男の人に眞似が出來ないことを女がしてゐます。どんなに學問が

進歩しても、科學が發達してもどうしても男の方が女を眞似ることの出來ない點があります。それは男のお腹にはどうしても子供が宿らないと云ふことです。どうしても男の方の胸からは、人間の最初の生命を養つて行くに必要なお乳は出ません。この世の中のことで、一番大切なものは、人間の命、その命を作る、この仕事は女の方に天から授けられてゐる。斷じてこれは男に眞似が出來ない。生命を維持して行く。これを第一義的の仕事、家庭的に考へて、國家的に考へて、民族的に考へて、人類的に考へて、命を作る、これが第一義的の仕事、ほかの學問、藝術、産業、政治、國防これは第二義的の仕事、私はかう考へて來ました。第一義的の仕事が女性に課されてゐるから、第二義的の仕事に於て劣つてゐるのは、これは當然なことです。

そんな風に考へまして、二十六年前であります、先刻申上げました、「母性は女性向上の障礙物」「家庭は牢獄なり」と云ふ考へ方に對して「女權主義過てり」と絶叫いたしました。女權主義的に進んで行けば國民の幸福の泉であり、國の力の源である家庭は、成立しないと説明致しました。女權主義者になつてもアメリカの生活は大部分さうであります、年頃になれば結婚いたします。結婚すれば一緒にゐる方が都合がよいから同棲はいたします。けれ共それは寄合世帯であります。

私共が考へてゐる本當に魂をふくよかに護つて行く家庭といふものは出来ません。つまり良人も働きに出てゐる。妻も働きに出てゐる。そして夕方になつて妻は急いで仕事をしまつて家に歸る。その頃良人も歸つて来る。今日は暑いから良人のためにかういふものを用意しておいて上げようといふ心にも體にもゆとりがありません。事務所の歸りに出来合ひのお茶を買つて来る、二三年前に、昨日もコロツケ、明日もコロツケ、年から年中コロツケといふ歌がありました。事務所の歸りにコロツケでも買つて来て、キャベジーでも刻んで積み上げて、さういふのは一日の仕事に疲れた心身を癒やす家庭ではありません。

それで私は、日本の女性が皆な女權主義になるならば、日本の家庭は總崩れ、家庭が崩れてしまふならば、國體が總崩れと考へました。そこで、私は「女權主義過てり」と絶叫したのです。それではどうすればよいのか。昔ながらの儘に男尊女卑の形で行つてよいのか、それはいけない。私は「婦人問題の解決は母性保護法の制定にあり」と申しました。母の生活を國が認めることだと申しました。

一昨年日本に對するアメリカの認識是正のために、私は渡米致しました。幸ひにルーズヴェルト

夫人にも會ふことが出来ました。日支事變のことに就てお話ししました。序ですから、そのことを一寸お話し致しませう。私はかう申しました。日本人は、殊に日本女性は支那に反感を持つてをりません。支那人を憎んでをりません。日本國のこの偉大さは支那に負ふところが多いのです。二千年來支那にお世話になつてゐることは算へきれません。支那は日本の大先輩であります。大恩人であります。この大先輩、大恩人が、外國かぶれして、思想の歪んだ蔣介石のために塗炭の苦しみを嘗めてをります。昔からの大先輩、大恩人である支那を救ふための戦ひでございます。かう申し上げました。その次に日本女性、日本の母は斯くの如きものです。徒らに武力を振はせるやうなことはしてをりません。日本女性の魂を見て下さい。と、かう申したのですが、そんなら日本女性の魂とはどういふものかと申しますと、それは、私が何の理屈なしに、悪く云へば、無我夢中で子供のため良人のため、全部を捧げて遺憾としなかつた、その時の氣持、さう云ふかたちの日本女性の心を申上げたので御座います。

私は二十五、六になつてから、貧乏世帯を切り盛りしながら、多少書物に親んだのでありますがそれは、私の主人が、餘り私が無學であることを憐れに思ひまして、せめて小學校卒業程度の文字

を覚えるといつて呉れました。それは有難いことで御座いました。どうかさうしたいものだ。小學校卒業程度の文字を覚えたい。三十にやがて手が届かうとしてさういふ状態でありました。貧乏世帯の合間、合間に書物に親しまうといたしましたが、時間がありません。一日働いて子供を寝かしつけて半頁でも一行でも二行でも本を讀まうとすると眠くなつてしまふ。けれども、あゝ私は母だと思ふ時、この子達が一人前になつて、世の中に出て、押しも押されぬやうになるまで、杖柱になつてゐてやらなければならぬのに、こんなに無學でどうするのだらうと思ふ時、要するに、私は母だと思ふ時、胸に錐を刺されるやうに感じて、私は書物に親しむことが出来ました女權主義過てりなどと絶叫したが、又、私の家は貧乏でして、私の主人は學者肌の男で、金を儲けることは下手でして、一ヶ月必要な金を取つてくれたことは一度もありませんでした。子供達を人並に學校に送るには、もつと金がなければならぬ。私がお金を取らなければ學校にやれない。それでせめて翻譯でもして稼ぎたい。かう希ひました。ですから、實は母なればこそその勉強、母なればこそその經濟的の仕事で御座いました。さう云ふ生活態度でありましたので女權主義の妻、母の任を捨てよと云ふ主張をたゞ見て過しては居られなかつたのです。ですから、私が母性生活をどんなに高調致しま

しても、それは、勉強もしないで、經濟的の働きもしないで、たゞ、子供を生んで、子供と一緒に香氣に遊んで居ればよいと云ふ意味ではありません。無學なお母さんよりは學問のある方が立派なお母さんです。經濟力のあるお母さんの方が、そのないお母さんよりはより有力です。要するに私達女性の學問はより立派な女性になるための、母になるための學問でなければならぬ。私達の經濟力は、より有力な妻、より有力な母になるための經濟力でなければならぬのです。「學問のある女は嫌ひだ。學問が鼻にぶら下つてゐるからそんな娘は嫁に貰はない」と云ふ氣分に對して、女權主義者は、「男は横着であるからデツクリ坊の女が欲しいのだ。腕のある女を男は嫌ふのだ」と申しましたが、併し、私はさうは思ひません。本當に男らしい男は本當に女らしい女を望む。本當に立派な女性は、男らしい男を望むのと同じやうに、學問が鼻にぶら下つてゐると云ふのは、其のいくらかの學問のために女らしさが失はれてゐる、それが嫌やなのは尤もです。本當に勝れた學問を持つてゐて、それがしとやかな女性美を發揮してゐるならば、これは女性として最高の女性であります。そのところを間違はないやうに願ひたいのです。

現下の國策に女性の力が大いに用ひられるやうになつたと先程申しましたが、東京市ではズツト

以前から女性に協力させて居りました。東京市は東京市民の家庭の延長、東京で経験して居りますから、東京でのお話を致しますが、これは宇部市でも、山口市でも道理は一つです。市役所の仕事はどういふことでありませうか？先づ電気がどうした、瓦斯がどうした、魚市場がどうした、交通機關がどうした、教育がどうした、全然家庭の延長です。一つの家庭が女ばかりでもいけないし男ばかりでもいけない。健實で、圓滿で、温味のある家庭、これは御主人と奥さんと揃つて、女の心、男の心、男の手、女の手、これが合さつて家庭がある。その家庭の延長であるのに、市政が男の考へ方、男の手だけでは足りないといふのは當然のことです。一つの家庭で、女ばかりの家庭、旦那様が亡くなつたとしますと、これも困りますが、男ばかりの家庭、奥さんが亡くなつた家庭は男裸にウジが湧くと云はれて居ります。東京市といふ一つの家庭、そこには男の考へ方、男の手、女の考へ方、女の手、これがなければ東京市政はうまく運用出来ません。これをハッキリお認めになつたのが、東京市第十五代目の市長牛塚さんでありました。牛塚市長さんが就任なさつた時、東京市ではゴミの問題が大問題でありました。東京全市のゴミが深川区に排出される。塵芥処理場があつて、そこへ持ち込まれるゴミが殖えて処理しきれない。あれは燃すことになつてをります

量が大きすぎて燃えきれない。臭い煙が深川中に擴がつて、學童は皆血膜炎を起す、咽喉を痛めるといふことになり、深川区民は全市のゴミのために命をとられるといふ騒ぎ。區民大會を開いてゴミの処理場を深川から取り去れといふ要求を市へ出しました。その時に、婦人側から牛塚市長に進言しました。「ゴミは各家庭の臺所から出て参ります。東京市のお役人が逆立してもゴミの問題は解決出来ないでせう。市民婦人と協力なさらなければ」と。牛塚市長さんは「さうだなあ」と仰有つて、保健局長と清掃課長にお話しになり、ここに保健局と婦人團體の幾人かとの協力が始まりました。目指すところは雑芥、厨芥分別処理といふことでした。流しものゴミ、一般のゴミを別に処理することでした。ゴミはかういふ風に処理しようとする婦人側では市民婦人に呼びかけ、保健局は其の準備をすゝめるといふ工合ひで、瞬く間に塵芥問題は解決がついたのでした。これによつて、牛塚市長さんは市政と女性といふことに就て自信をお持ちになりました。何かといふと婦人よ手傳へと仰有いました。その代り時々私達は市長さんから御馳走を頂きました。牛塚市長は女に甘いといふ評判が立ちました。或る機會に牛塚市長は日比谷公會堂で、大衆の前で仰しやいました。「牛塚市長は女に甘いと世間で悪口を申しますが、私は女に甘いではありません。東京市政に甘いのです。東京市政

を大切と思へばこそ婦人を大切にしてをります」と仰しやいました。東京市で婦人を使つて成績がよいので、府でも、内務省でも婦人を使ふことを考へるやうになりました。選舉肅正をするのだ、婦人よ出て來い、結核豫防をするのだ、婦人よ働け、と云ふやうに婦人が引っぱり出される傾向になつて居りまして、そして、日支事變となり、婦人は益々外へ出るやうになり、そのために、家庭争議が起つたりしてをります。

家庭争議の點に付ては大いに考へなければなりません、兎に角、日支事變で、武力では御承知の通り連戦連勝、國威を擧げて遺憾ないけれども、經濟力に於て、經濟戰に於てどうだらうかといふことが大變な心配、それで眞劍に考へてどうすれば日本が經濟的に萎憊しないで、武力戰に勝つたやうに經濟戰に於ても勝てるだらうかといふことを一生懸命考へて、これはどうしても國家の消費の七、八割を司つてゐる女性がこの時局を適確に認識して國策に協力しなければならぬといふことになりました。それで、差當り随分この邊でも貯蓄の奨励、廢品の回収などといふことを仰しやつてをりませう。經濟戰に備へるために生産力を擴充しなければならぬ。消費の配給を統制しなければならぬ。代用品の使用を奨励しなければならぬ。いろ／＼なことがあります。そんな

ことはいはなくても、皆さんとつくに御承知でありませう。物を無駄にしてはいけません。廢品を回収して利用しなければいけない。資源愛護といふことが強調されてをりますが、ここで私が今申し上げたいのは、女性の力を無駄にしないやうに、女性の廢品を出さないやうに、若し廢品になつてゐる女性があるなら、此の際、それを回収するやうにかういふことを申上げて見たいと思ひます。今まで餘りに男尊女卑の考へ方で、女は單なる男子の對象物と考へて居りました。國民といへば男子であつて、男子に便利な存在としての女性であつて、一人の男の妻として、そしてその男の子供の母としての存在だけにしか考へられてゐなかつたのです。ですから一人の男子の一個の對象物としての女性でありますから、この男性の對象物としての用が終つてしまふと、その人は人間の廢品になつてしまつたといふのが今までの實情であります。社會的位置のある方の奥さんで「主人が亡くなりましたから、餘生は皆さまのお邪魔にならないやうに引込んで」……お邪魔にならないやうにと思ふ。妻としての仕事が終われば世の中に仕事はなくなつたと思ふ。そして、引つこんでしまふ。これを私は女の廢品と申します。かう云ふ相談がありました。

私は今年廿七才になります。農村の娘です。十七才の時に父母が亡くなりました私は長女です。

——この娘が十七、その下に三人弟と妹がある。お爺さん、お婆さんがあります。——三人の幼い弟妹二人の祖父母、これだけで、働き手が家にございませんでした。私は十七になつてをりましたから自分が父母に代つてこの家は背負つて行かなければならないと決心いたしました。十七の年から今日まで本當に働いて働いて、遂に白粉を使ふ術も知らず二十七になつてしまひました。妹は二十の花ざかりになりました。お化粧も上手です。それで妹に向つては縁談が降る程ございます。私には縁談が一つもございせん。——つまり姉さんが一生懸命働いてゐるから家は立つて行くので妹は氣樂である。お化粧も上手になつた。それでどん／＼お嫁に貰ひ手がある。姉さんは貰ひ手がありません。ここに至つて姉さんは悲觀してしまつたのです。——妹の生活が華やかであるので、家にゐたたまれなくなりました。私はもう苦しくて家にをられません。東京に出て女中奉公でもしたい、口を探して下さい。その終ひに黄昏時に立ち竦む女、とかういふのです。もう自分の人生は日が暮れようとしてゐる。一遍も花を咲かせずに日が暮れようとしてゐる。どつちへ行つてよいか分らないこの氣分です。それに對して私はかう答へました。貴女は二十になる妹が美しい花の盛りといひましたね。もし人間の、女性の美といふものが、顔の美だけであるならば、外部の美しさだけである

ならば二十の時の美しさが最上でありませう。けれども外部だけの美しさを人間の美の全部だとするならば、それは牡丹の美に劣るかも知れない。薔薇の花の美しさにも劣るかも知れない。けれども人間の美は外部だけのものではない。妹さんが花の盛りとあなたはいふ。この花の盛りは二十五になると薄れて来る。三十になるとふつくらした卵型がいくらか尖んがつて来る。四十になると皺が目立つて来る。五十になると皺が一杯になつて梅干のやうになる。人間のひもの、觀を呈して来る。要するに廢品になつてしまふ。けれども人間はそんな安つぱいものではない。單なる花の美にない人間の美、それは精神の美、精神の力である。まだ十七才の少女の身で、一家の柱になろうとした其の心の力、その美は不變であるばかりでなく、永久に成長するものだとは申しました。實は今年の婦人公論の新年號を御覽になつた方がありませうが、新年號に社會的に働く女性の寫眞が出ました。一番最初に吉岡さん、女子大の井上さん、家政學院の大江スミ子さんと私と四人お撮りになりました。この四人を代表して私に一文書いて仰しやいましたから六十女の辯といふのを書きました。皆な六十越してをりますから。私が書いた通りには出ませんでした。字數が少いので徹底しませんでしたけれど、今の氣持を私は書いたのです。大臣、參議になる人は六十を越した方々

が多いです。私は前からそれを考へて居りました。たまには近衛さんのやうな方もありますが、兎に角全國民の信頼を荷ふことが出来る貫祿が出来るのは先づ一般には六十であらうと。六十になつて漸く一國の柱となり得る貫祿が出来る。かういふ方の經歷をすつと眺めて見ると、二十位では胡瓜のウラナリみたいに青白く、三十位になると物になりさうな氣はいが現れ、四十になつて熟しはじめ、五十になつて愈々熟してそれから十年の經驗を積んで、總てのことが分るやうになつて、六十にして大臣たるの貫祿が出来る。これが、私共人間の進み行く本當の過程だと思ひます。二十が花の盛りで三十になると顔がトンがつて、四十で皺がはじまつて、五十で廢品では、勘定に合ひません。私達は六十の聲を聞いて、いよくこれからお國のお役に立ち得る確信が出来た。かう私は書きました、本當に私はさう思ふのです。

時々聞かされることですが、まだ五十臺の方が、どうもこの年をいたしまして、婦人會でもないのですが、餘り獎められますので、お恥しいが出て居ります。私共の出る幕ぢやないので、などいはれますここに大きな間違ひがあります。もう一つかういふことを考へなければなりません。どこへ行きましても家庭婦人が外に出ることが餘りに多いため、かなり家庭争議を起して居りま

す。つまり今まで丈夫であつた子供が病氣をした。お母さんが家にゐないから、小學校一年生から五年六年優等で来たのに中等學校に入るのに落ちてしまつた。お母さんが家にゐなかつたので勉強しなかつた。お父さんが文句を言ひ出した。と、かう云ふのであります。私は先程申しました。國家として、家庭として、第一義的の仕事は子供を育て、行くことだと。そして比の子供を育て、ゐる、民族の新らしき生命を擁護してゐる者は誰かと云ふと、それはお腹に、又は兩手に、赤ちやんを抱へてゐるお母さんであります。して見ると、民族的に國家的に婦人界の第一線に立つてゐる婦人と云ふのはお母さんであります。それが第一線でありますから、ここが一番大切なところ。戦争で申しまして第一線に立つてゐる兵隊さんはそこを動くことは出来ません第一線に立つ兵隊さんにガツチリ其の任務を果して頂くための、後方部隊の活躍が必要です。それと同じ意味で、お母さんは其處を、つまり家庭を動いてはいけないから、其處で、既に、第一線の現役を終つた年輩婦人が、後方部隊となつて、外からいろ／＼働いて上げるのです。社會的に働いてゐる婦人、つまり、私達のやうな者を、一般には第一線に立つ婦人と申しますが、それは誤まりです。私達は後方部隊です。

母子保護法制定運動にしてもさうでした。非常時局になつて銃後の護りとして大事なことの一つは健實な國民を作るといふことです。全國のお母さん達が第一線でシツカリ其の任務を果し得るやうに、國家がお母さんの生活を護る法律を作るやうに、其の運動をした。それは家庭婦人としての現役を終つた、乃至さうした任務を持たない婦人、即ち後方部隊の仕事だつたのです。かういふところが諒解出來ますならば、子供を泣かせて、赤ちゃんを放つぽり出して置いて、お母さん達は、それがどんな意味のものであれ、外を飛び歩いては居られない筈です。要するに、外での婦人の仕事は後方部隊が爲すべきものです。

母子保護法のことにつきまして、簡単に、一寸申上げて置きます。昭和九年に母子保護法制定運動がはじまりました。一昨年春、第七十議會で其の法案が通りました。十三年一月一日から實施になつて居ります。母子保護法が出来るに就きましては、多くの方々の御努力、御諒解、いろいろなことがありますが、私一個と致しましては、先程お話ししました女權主義が入つて來た時に、これは間違つてゐると考へて、そして、婦人問題の解決は母性保護法の制定にありと叫んで、以來昭和九年までいろいろなことをいろいろな方面から、いろいろに云つては居つても、要するに、趣旨

は一貫して居りました。そして、昭和九年から其の實際の運動に入つたわけです。一昨年春の第七十議會に於て、時の内務大臣、河原田さんが、二十有餘年間常に私が願ひ求めてゐたことを貴衆兩院に於てハツキリ仰しやつて下さいました。即ち、「國民の母なるが故に、一朝良人に間違ひがあつた場合には國が其の良人に代つて母と子の生活を保護する。」と。今までは子を抱えた妻の生活は國家的に認められてゐなかつた。一朝良人がゐなくなれば、妻は生きてもをられないといふことでありました。それを第七十議會に於て一朝良人に間違ひがあつた場合は、國家が良人に代つて母と子供の生活を保護するといふ原則が確立した。これは素晴らしいことです。とは、申しませんが、母でさへあれば、全國の母達が皆なこの法律に依つて保護されるかといふとさうではありません。私達が目指しますところは、私が先程お話ししましたやうなところ、つまり國家としての第一義的仕事は母性生活であると云ふ、ここまで國民の母に對する認識を高めて行くのでありますが、其處まで行くのはまだ前途遼遠であることを承知してゐます。兎に角昭和九年にこの運動を起しました時の目標はズツと低いのです。

母子心中が非常に多いことにかんがみまして、民族の母であり乍ら生きてもをられない状態に置

かれる。これをたゞ見て過ごすことは出来ない。母子保護運動の第一着は、母子心中の防止対策樹立、どうすれば日本に母子心中と云ふ悲惨事をなくすることが出来るかといふのが目標でありました。全部の母子心中の五割が生活困難でありますから、これに對しては母子保護法を。又、全部の母子心中の三割は民法の不備といふこと。其れに對しては家事調停法を作つてお母さんがお母さんとして生きて行かれる道が招く。かう云ふことでありましたが、これは今年の議會で、人事調停法の名の下に通過致しました。とにかく、民族の幸福の泉、國の力の源、母の生活を保護されたいために母性保護聯盟が議會へ提出した二大法律案は、通過しました。しかしこれで私共の母性保護運動といふものが完成したわけではありません。つまり私共が希望してゐるやうな状態に女性が、母性が上るのに階段が十あるといえますと、その十段のうちの一段が出来たといふことなのです。今まで全然考へられてゐなかつた母、國民の母なるが故に一朝良人之間違ひがあつた時に母子の生活費を國が良人に代つて支給する、かういふ原則が出来たのです。宇部ではそんなに困つてゐるお母さんはないさうです。恐らくここにゐる方は母子保護法のお世話になる方は一人もゐらつしやらないでせう。母子保護法が出来たからといつて、母子保護法の世話になる必要はないからといつて、私達

に用のないものとお考へになつたら大變な間違ひです。母性といふものがこれで國家的に確認されたのであるから、これを契機に母性といふものを全國民が見直して行くことになる。こゝに重要な意味があることを申し上げたいのです。

こんな風に、女の生活といふものが各方面から眞面目に考へられるようになりました。そしてこの事變をきっかけに女性の力が期待されるやうになりました。武力では勝つて來たが、經濟力に於てどうだらうか、それは女性の力に俟つ處が多い。さういふことになつて來てをります。そこで私達は覺悟しなければなりません。物を大切にしなければならぬ。物を無駄にしてはならないといふことは勿論であります。物よりも尙ほ大切なのは人の力でありませう。殊に全國の女性の力が長い間の悪い習慣の結果自分を卑しめてゐる。つまり二十を花盛りと考へてをります。その誤りを撤回しなければなりません。全國の女性、何千万の女性が二十を盛りと考へて、そして、三十あたりから下り坂で、五十になつたら梅干のやうになつて、そして引込んでしまつてをりますことは何んと云ふ國家の損失でありませう。年を取つたから、外に出るのは恥しいからといふので、クシヤクシヤしてゐてはいけません。

私はアメリカをすつと歩いて、ハワイへ来ました。ハワイは島が八つありますが、其のうちの四つの大きな島に行きました。マウイ島といふ所に行きました。同胞に對して日支事變のお話をし、米國人などには膝を突き合せて日本精神を知つて頂くことに務めてをりました。マウイ島にスワイツさんといふ博士が居りました。日本の軍隊がどんなに強いかといふお話をいたしました。大變共鳴して下さつて、自分は十七年間日本に生活した。日本精神がよく分つてゐる。かう仰しやつた。それから今の世界中を眺め渡して見て、世界列強を木に例へて見ると、どの國も、どの國も移植された木か、さし木であるが、日本だけは生え抜きの木だと仰しやいました。生え抜きの木は今の世界で日本だけだ。三千年の齡をけみして、生命がビチビチとして成長しつゝある。生え抜きの木で、世界に枝葉を張つてゐる大樹だと仰しやつて下さいました。その時は本當に嬉しう御座いました。本當に、世界に聳える大樹、枝が世界に伸びつゝある。かういふ風にいつて下さいました。本當に枝が伸びつゝある。日本民族はとても海外へ發展しつゝあります。米國へは勿論のこと、臺灣、朝鮮、滿洲、それから支那に伸びつゝありますね。昨年ちよつと朝鮮、滿洲に行きましたが、大抵の處、人口の一割が日本人といふことになつてをります。安東はよいところです。新義州から鴨綠江

を渡つて安東ですが、ここなんか全體の人口が二十万、そのうち日本人は二万といひましたが、どこへ行つてもそんな割合にきゝました。一割の日本人ですが、其の力は全體を覆ふてをります。滿洲國、本當に他所の國ではありませんが、しかし私は感慨無量でありました。滿洲國に行くと、滿洲の金を使はなければなりません。けれども、そのお札の印刷が同じなのです。意匠が同じです。やはり日本人が作つてゐるといふことでせう。さういふ風ですね。ハワイは人口三十九万と申しますが、十五万人が日本人、二十四万が十の人種に分れてゐる。十一人種で三十九万になつてゐる。日本人が十五万人、白人五万何千、支那人五万何千、ヒリツピンが七千、何々人が二千とかういふ風になつてをります。ですから、ハワイは斷然日本人の勢力です。ハワイでは白人の店でも日本語が分らないと採用されないといふ形勢です。米大陸に行きますと、それはハワイのやうに日本人に勢力がありません。滿洲朝鮮のやうに日本人が支配する譯に行きません。何となく抑へられてゐる氣持であります。しかし發展しつゝあることは素晴らしいです。商業、農業、總ての方面に於て素晴しく發展してゐます。こんな發展して行くに付ては、それだけの素晴らしい特色が日本人にはあるのです。日本人特有の他國人に眞似られないものがあるのです。この力で本當にアメリカへも其の外へもぐんぐん

伸びて行くのです。併しながら、そんなに伸びて行けば、又、それだけ、各方面にアツレキを起すことも事實です。それが難かしい國際問題となつてゐるのです。偉大なる我が皇軍の素晴らしい勞苦の結果、我が國は世界を驚愕せしむるやうな立派な戦績を擧げて居ります。本當に私共は皇軍に感謝の言葉が御座いけません。そしてその感謝はたゞ心に持つてゐるだけではいけません。その御苦勞を無駄にしないやうに、經濟戦に負けてはならないといふこと、武力では勝つたが、經濟的に到頭へたばつてしまつた。日支事變は日本が負けだといふことになつては、日本女性の面目が立ちません。貯金もしなければならぬ。いろ／＼なことをしなければなりません、先づ第一に私共は女性として今まで随分力を無駄にして居つたと云ふ點に就てしつかり考へて頂きたいと思ひます。

若いお母さん達は銃後の護りの重要な仕事の一ツとして、お子さんを立派に育て上げることが先づ第一として頂きたいです。年配婦人は若い母達の後方部隊、その町の又は村のお母さんになつて頂きたいと思ひます。一日働くのが疲れるようなら、一時間でも二時間でもよろしいです。個人的母としての務めを終つたお母さん方が町のお母さん村のお母さんとなつて、村の人、町の人を我が娘、我が息子と考へて働く時に、銃後の護りはシツカリ致します。實に難かしい國際情勢、古

今未曾有の此の大國難に際しては、今迄ねむつてゐた日本女性の力を全部呼び覺まさせねばなりません。全女性の總力が全面に浮び上がつて來る時に、全世界を敵にまはしても我が國は恐るゝに足りません。これが私が時局に於て皆さんに願ひしたい點でございます。(一四・五・一八)

文化協會發行書籍目錄

◎講演叢書第一篇(第一回特別記念) 定價貳拾五錢
(大講演會講演集) (送料參錢)

〔丙 容〕

京都帝國大學教授

文學博士 羽溪了諦述

物 心 心 心 心

大阪毎日新聞社經濟部長

經濟學博士 阿部賢一述

北支事變と日本經濟の將來

◎講演叢書第二篇(第一回文化講) 定價五拾錢
(習會講義錄) (送料九錢)

〔丙 容〕

東京帝國大學助教授

矢部 貞 治述

歐洲政治の現況

廣島文理科大學教授

古賀 行 義述

青少年の心理と犯罪

京都帝國大學助教授

中村 直 昭述

日本精神史講話

京都帝國大學教授

經濟學博士 作田莊一述

現代の經濟問題

◎講演叢書第三篇 定價拾五錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

外務省情報部第三課長

矢野 征 記述

支那事變と列國の動向

◎講演叢書第四篇 定價拾錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

大阪朝日新聞社論說委員

經濟學博士 飯島幡司述

蔣政權の崩壊と支那の經濟

◎講演叢書第五篇 定價拾錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

立命館大學 講師

大阪朝日新聞社客員 釋 齋 齋 述

時 局 我 觀

山田龜之介著

◎字部の指導精神 定價拾錢
(送料參錢)

◎財團法人文化協會年報
(附、信念を語る)

◎講演叢書第六篇 定價貳拾五錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

顯真學苑主幹 梅原區隆述

背 私 向 公 の 秋

文學博士 山田孝雄述

わ が 國 體

評論家 村岡花子述

母と子の世界

理學博士 平岩馨耶述

動物の雌雄性をあばく

◎講演叢書第七篇 定價金拾五錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

貴族院議員 下村海南述

法學博士 國際政局と支那事變

文化協會編

◎昭和十三年宇部年鑑 定價拾八錢
(送料參錢)

◎講演叢書第八篇 定價參拾錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

海軍機關大佐 中村 止述

航 空 機 に 就 て

濱松高工教授 高柳健次郎述

テレビジョンに就て

◎講演叢書第九篇(文化講義) 定價六拾錢
(送料九錢)

〔丙 容〕

東京帝國大學助教授

文學博士 宇野圓空述

日本民族性の諸問題

東京高等師範學校教授 佐々木秀一述

兼附屬小學校主事 日本教育建直しの方針

九州帝國大學教授

經濟學博士 三田村一郎述

戰時體制下の財政經濟の動向とその主要問題

東京帝國大學教授 宮澤俊義述

現代政治體制の生成

◎演講叢書第十篇 定價拾七錢
(送料參錢)

〔丙 容〕

東洋經濟新報社主幹 石橋満山述

企 畫 院 委 員 時局と經濟界の前途

◎講演叢書第十一篇 定價五拾錢
(送料六錢)

〔丙 容〕

山口高商教授 菊澤謙三述

統制下の小賣商店問題

渡邊翁に
關する 弓削香邨著述目錄

- 素行渡邊祐策翁 定價七圓五拾錢 送料七拾錢
- 人生讀本(絶版) 送料壹圓
- 隨渡邊祐策翁 定價壹圓貳拾錢 送料拾錢
- 素行翁遺訓 送料參拾錢
- 英文渡邊祐策翁 定價六拾錢 送料拾錢
- 解說素行翁遺芳帖 限定版
- 素行翁書翰集 近刊

山口縣宇部市
財團法人 渡邊翁記念文化協會
電話 四九九二
振替 下關三九二六

昭和十四年七月十日印刷
昭和十四年七月十五日發行

歐洲の情勢と支那事變
定價 貳拾●五錢 (送料共)

(製複許不)

宇部市島
發行兼 弓削達勝
編輯人
山口市道場門前二〇ノ二〇
印刷所 大同印刷舍

山口縣宇部市渡邊翁記念會館内
發行所 財團法人 渡邊翁記念文化協會
電話 四九九二
振替 下關三九二六

390
291

終

